

## ～ HOT News ～



- ★ 1. 佐賀大学授業開放 “学び直し学び始めの第1歩” >P 2
- ★ 2. 佐賀県との再エネ連携協定、CIREn設立 >P 3 ~ 4
- ★ 3. 太陽光利用型植物工場オープン >P 5

## ～ これまでとこれから ～

- 1. 経営理念, 新運営体制と大学機構図, 教育研究院 >P 6~10
- 2. 佐賀大学美術館 (統合10周年記念事業) >P11~13
- 3. 経営協議会における外部委員からのご意見 >P14
- 4. IR(Institutional Research)室の取り組み >P15~17
- 5. 財務レポートと分析結果の活用 >P18~19
- 6. ダイバーシティ推進に向けた取り組み >P20~21
- 7. 佐賀大学基金への寄附手続きの利便性向上 >P22
- 8. 高大接続改革プロジェクト (CBT・とびらプロジェクト) >P23~24
- 9. 全学教育機構の取り組み >P25~27
- 10. クリエイティブ表現プログラム (デジタル表現技術者養成プログラム) >P28
- 11. 学生への経済支援・かささぎ奨学金 >P29~30
- 12. AIを活用した学生支援プロジェクト  
～「AIヘルプデスク」サービス～ >P31~32
- 13. ラーニング・コモンズと附属図書館の取り組み >P33
- 14. 「明日の社会」を創造する研究の推進  
～重点領域研究と研究センター紹介～ >P34~38
- 15. リージョナル・イノベーションセンター >P39
- 16. エスタブリッシュド・フェロー授与 >P40
- 17. 研究基盤共用促進チーム・キックオフ >P41

- 18. 医学部附属病院の最近の取り組み >P42~45
- 19. 学部・研究科の特色・強み **教育** **芸術** **地域** **経済** **医** **理工** **農** >P46
- 20. 理工・農学部, 工学系・医学系・農学研究科の改組 >P47~49

## ～ 地域等とのかかわりのなかで ～

- 21. さが地方創生人材育成・活用プロジェクト(COC+) >P50~51
- 22. 自治体との相互協力協定など >P52~58
- 23. 「マイクロソフトイノベーションセンター(MIC) in SAGA」  
を核とした五者による連携協定 >P59
- 24. イノベーション・ラボ, (株)オプティムとの連携,  
モノタロウAIストア >P60~61
- 25. 国際性を育む佐大生 / 留学支援事業 >P62~64
- 26. ホームカミングデー & 海外版ホームカミングデー >P65~66

## ～ そのほか ～

- ※ 本学発ブランド, 学長対談, 広報室活動 など >P67~68
- ※ ファシリティ(教養大講前広場, 大学会館等) >P69~70
- ※ 平成21年10月以降の主な取り組み (archive) >P71~72



志, 挑戦, そして未来へ



# ★1. 佐賀大学授業開放 “学び直し学び始めの第1歩”



## 2019 後学期 佐賀大学 授業開放

**学び直し  
学び始めの  
第1歩**

講習料：  
1科目 10,000円  
90分×15回

佐賀大学全学教育機構  
生涯学習センター  
TEL：0952-28-8334

佐賀大学 授業開放  検索

### ■開放科目一覧 (2019年後学期)

◇詳細はそれぞれの授業科目の概要をご覧ください。

No.	授業科目名	時間割	キャンパス	講習料	担当教員	ページ
<b>【自然科学と技術の分野】</b>						
1	機械工学の世界A (やさしい材料の力学)	水2	本庄	¥10,000	服部 信佑 他	8
2	物理の世界II (現代物理学の世界)	水2	本庄	¥10,000	河野 宏明	8
3	化学の世界A	木2	本庄	¥10,000	花本 猛士 他	8
4	生物学の世界	木2	本庄	¥10,000	宮脇 博巳	9
5	地学の世界	水1	本庄	¥10,000	高島 千鶴	9
6	Introduction to Science*	木2	本庄	¥10,000	海野 雅司 他	9
7	情報科学の世界II (社会の中の情報科学)	水2	本庄	¥10,000	堀 良彰	9
8	電気電子工学の世界B	木2	本庄	¥10,000	深井 澄夫	10
9	栄養科学B (恒常性の基礎・維持から疾病まで 健康維持の実際)	木1	本庄	¥10,000	岡島 俊哉	10
<b>【文化の分野】</b>						
10	日本史	木2	本庄	¥10,000	宮武 正登	10
11	画像へのアプローチ	木2	本庄	¥10,000	大塚 清吾	10
12	Critical Thinking for the Modern Age*	水1	本庄	¥10,000	ピーター ルー	11
13	映画で学ぶクラシック音楽	水2	本庄	¥10,000	西村 雄一郎	11
14	Cultural Metaphors*	木1	本庄	¥10,000	ピーター ルー	11
15	スポーツウェルネスの世界	水1	綱島	¥10,000	倉岡 晃夫	12
16	歴史文化II (映画で学ぶ幕末維新)	木2	本庄	¥10,000	西村 雄一郎	12
17	哲学・倫理学	木2	本庄	¥10,000	後藤 正英	12
18	記号論 (記号情報論)	木1	本庄	¥10,000	木戸田 力	13
19	西洋史	水2	本庄	¥10,000	都築 彰	13
<b>【現代社会の分野】</b>						
20	環境科学II	水1	本庄	¥10,000	岡島 俊哉	13
21	アジアコミュニティ論	木2	本庄	¥10,000	張 韓模	13
22	健康科学B (病態科学)	水1	本庄	¥10,000	福留 健司	14
23	健康科学B (病態科学)	水2	本庄	¥10,000	福留 健司	14
24	経済学	水1	本庄	¥10,000	上山 和俊	14
25	会計学	水2	本庄	¥10,000	山形 武裕	14
26	教育学	木1	本庄	¥10,000	山内 一祥	15
27	教育学 (教育の研究課題)	木1	本庄	¥10,000	村山 詩帆	15
28	教育と人生(「物」と「心」から「生」を見つめる)	水3	綱島	¥10,000	岡島 俊哉	15
29	Life in the Global World*	木1	本庄	¥10,000	ジョナサン モクスン	15
30	心理学A (発達心理学)	水2	本庄	¥10,000	村久保 雅孝	16
31	心理学B (対人関係の心理学)	水3	本庄	¥10,000	村久保 雅孝	16
32	情報メディアと倫理	木2	本庄	¥10,000	堀 良彰	16
33	生命保険概論	水1	本庄	¥10,000	中山 泰道	17
34	グループワークの技法と実践	水1	本庄	¥10,000	山内 一祥	17

## ★2.佐賀県との再エネ等先進県実現に向けた連携協定を締結し、 新組織「再生可能エネルギー等イノベーション共創プラットフォーム(CIREn)」を設立

### CIREn(セイレン)設立背景

10月8日「**再エネ先進県実現に向けた連携協定**」を締結



#### 佐賀県 佐賀大学

〈連携・協力事項〉

- ・産業創出に資する情報や交流  
機会の提供
- ・産学官連携による研究開発等  
の推進
- ・再エネ等に関わる人材育成

協定に基づく取組として…

### **CIREn(セイレン)を設立**

10月8日、佐賀市内で設立総会を開催

○設立時会員数：

80（企業・団体・個人数）



### CIREn(セイレン)とは

CIREn(セイレン)は、再エネに係る産学官連携の推進組織



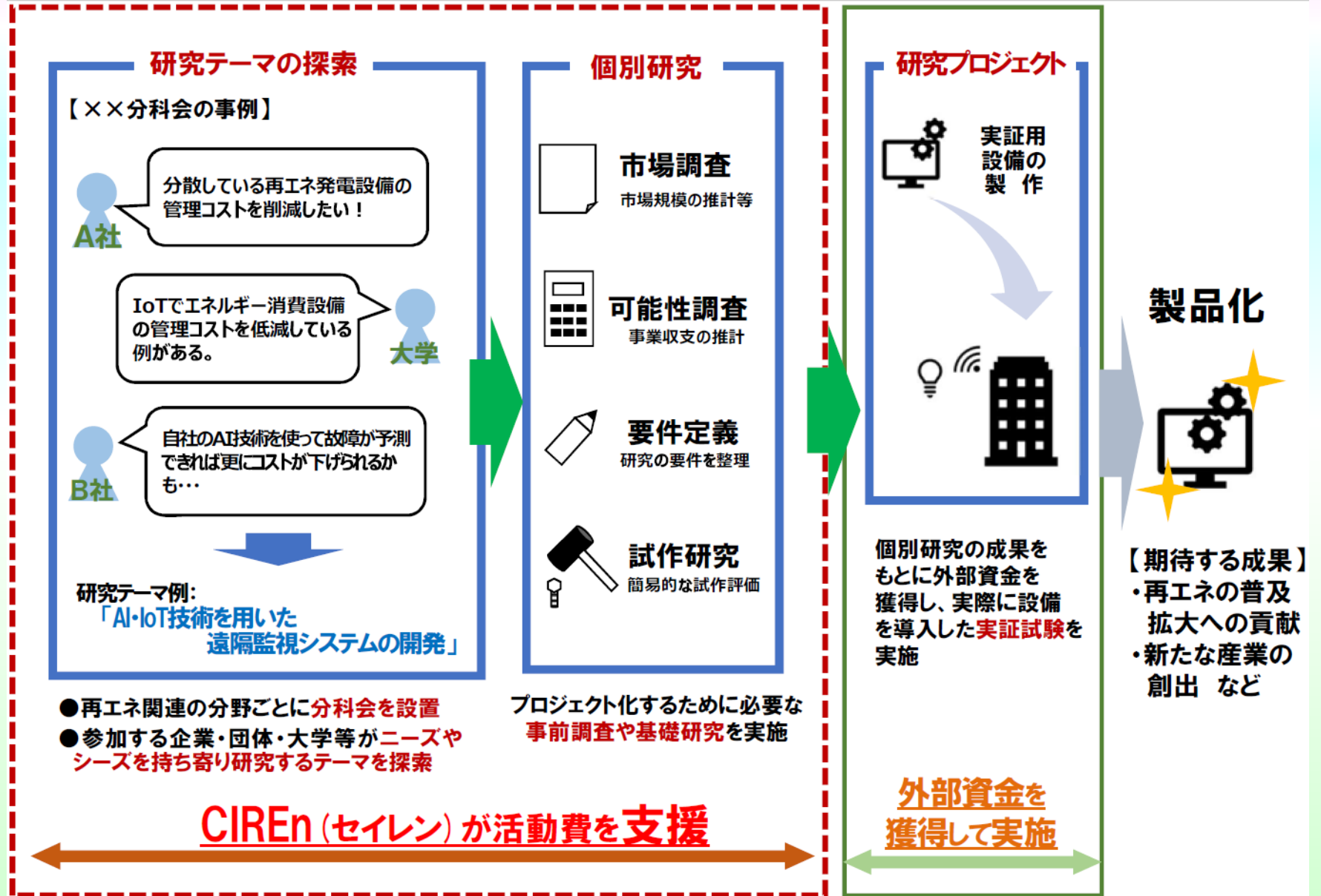
### CIREn設立趣旨

オープンイノベーションを基軸に  
様々な分野の英知を結集させ、  
再エネ等の研究開発や市場開拓を  
進めることで、**県内の関連産業  
創出を加速**させる

- ✓ オープンイノベーション
- ✓ 会費無料（活動に係る交通費等実費は会員負担）

出典：CIREn事務局（佐賀県産業労働部新エネルギー産業課）令和元年11月7日  
「再生可能エネルギー等イノベーション共創プラットフォーム（CIREn）概要説明」

# CIREnの研究開発の進め方（イメージ）



## ★3. 太陽光利用型植物工場オープン 令和元年6月～

佐賀大学農学部では、令和元年6月に本格的なオランダ式の太陽光利用型植物工場がオープンしました。植物工場では、葉物野菜（レタス、チンゲンサイ、ネギ、コマツナ、パクチー、バジル、セルフィーユ、ディルなど）やトマトを一年を通して生産しています。



本庄キャンパスに設置された太陽光利用型植物工場



オランダ式のトマト栽培設備

### 目的・活用

- 地域における自律的な農業の発展に貢献できる、高い専門知識・利用技術を持った人材を供給すること
- 学生実習、野菜生産、施設園芸研究を3つの柱として活用

### 太陽光利用型植物工場の特徴

- 葉菜類のほかに、トマトなどの果菜類も栽培可能
- とても清潔に保たれており、土壌を使わずに、養液を使用
- 病害が発生することがほとんどないため、葉菜類は無農薬栽培

### 高機能・高品質野菜を目指した研究

- 植物工場の室内環境が高度に制御されていることを生かして、  
⇒従来の栽培方法では難しい特定の有効成分を豊富に含む野菜  
⇒佐賀では見られない珍しい野菜  
⇒季節に関係なく収穫できる野菜  
など植物工場に適した新しい栽培品目の開発・研究

# 1. **経営理念**・第3期の運営方針、運営体制、教育研究院の設置

## めざす大学

芸術的感性豊かな 多様性に富む  
グローバルな視野を持つ 地（知）の拠点

## 育成したい人材

佐賀の歴史に誇りを持ち、文化度が高く 芸術的素養のある、  
かつ、社会の変容に対応できる多様性に富む人材

## 第3期の運営方針

- **経営理念・方針の認識共有強化**
- **イノベーションの推進**
- **地域貢献事業の拡充と創出**
- **地域雇用拡大と就職率の向上**
- **歴史認識・文化度向上への貢献**
- **グローバル化の推進**  
＝アジアとのネットワークの充実
- **コンプライアンスの強化**



美術館前時計台



監事 佐々木 寿明  
監事（非常勤） 北村 博

学 長  
兒玉 浩明

顧問 井上 萬二

副学長  
（全学教育機構担当）  
早瀬 博範

理事（副学長）  
（企画・総務・財務担当）  
渡 孝則

理事（副学長）  
（教育・学生担当）  
山下 宗利

理事（副学長）  
（研究・社会連携・国際担当）  
寺本 憲功

理事（非常勤）  
（社会貢献担当）  
吉田 哲雄

副学長  
（事務局長兼務）  
山崎 英司

理事室  
（学長補佐）

企画・総務室

岩本 諭  
（人事マネジメント担当）  
只木 進一  
（大学評価担当）  
山口 夕妃子  
（広報企画担当）  
西郡 大  
（企画・IR担当）

教育室

鯉川 雅之  
（教育改革担当）  
倉岡 晃夫  
（学生生活担当）  
小野 文慈  
（教員養成機能改革担当）

学術室

六井 豊昭  
（研究力強化担当）  
後藤 聡  
（研究評価担当）

基金事務室  
環境安全衛生管理室

【学長補佐】  
（有田キャンパス担当）  
吉永 達雄

担当室等

広 報 室  
評 価 室  
大 学 推 進 室  
C S I R T  
美 術 館 会  
校 友 会

アトミッションセンター  
キャリアセンター  
教員免許更新講習室  
学生支援室  
地域創生推進センター  
入試改革推進室

リージョナル・イノベーションセンター  
国際交流推進センター  
病院再整備推進室

【キャッチフレーズ】  
志，挑戦，そして未来へ

主な連携  
事務

総務部，財務部，環境施設部，学務部，学術研究協力部，医学部事務部

学務部，学術研究協力部

学術研究協力部，医学部事務部



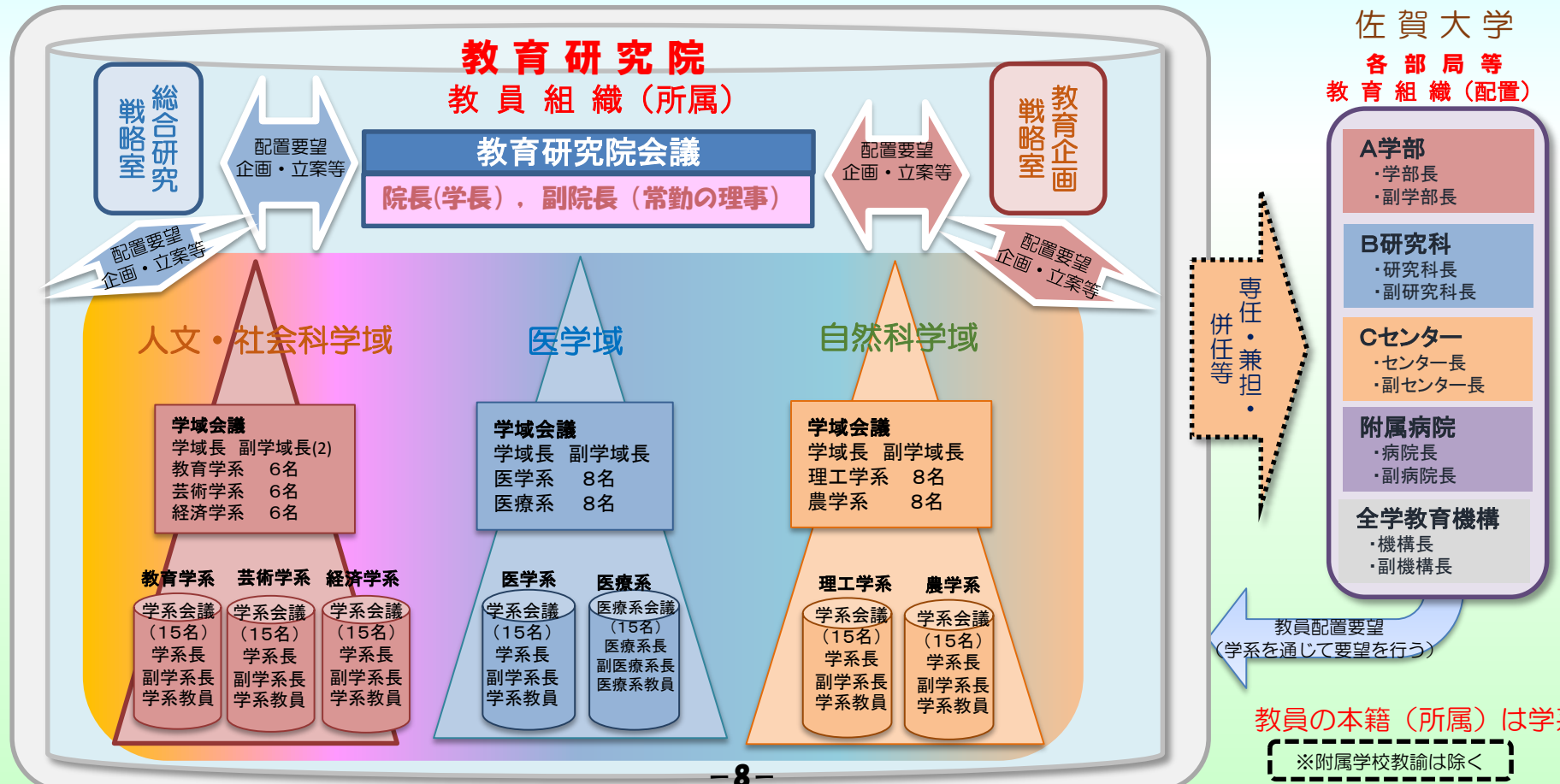
# 教育研究院の設置－平成30(2018)年4月－

## 教員組織と教育組織の分離に伴う新たな運営体制 ～教員組織の最適化と新たな研究分野の創成～

- ・教員がより柔軟で横断的な教育研究活動を行えるよう、また、全学的に教員人事を一元化し、限られた資源を有効活用するための新たな教員組織である教育研究院を平成30年4月に設置。
- ・教員組織は、大きくくりされた専門領域である3つの学域で構成。また、効率的な組織運営のため学域に7つの学系等を設置。
- ・教員は教員組織である教育研究院のいずれかの学域・学系に『所属』。
- ・教員は各々の専門分野に応じて必要とされる学部、研究科等に配置。

### 国立大学法人佐賀大学

運営体制（イメージ）



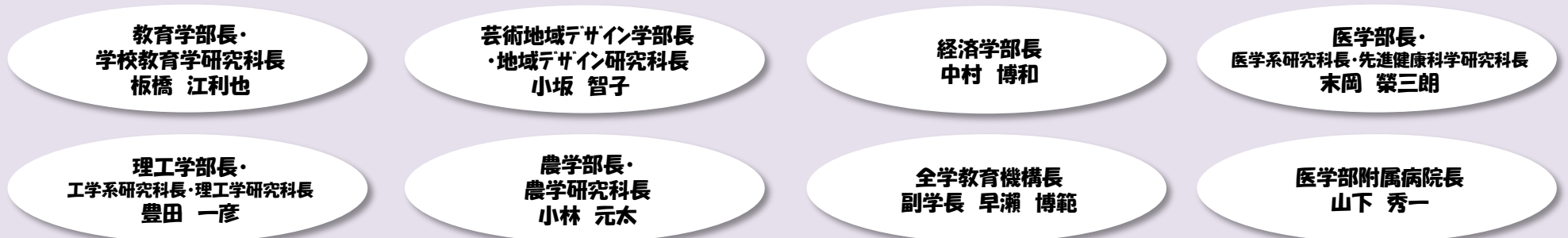




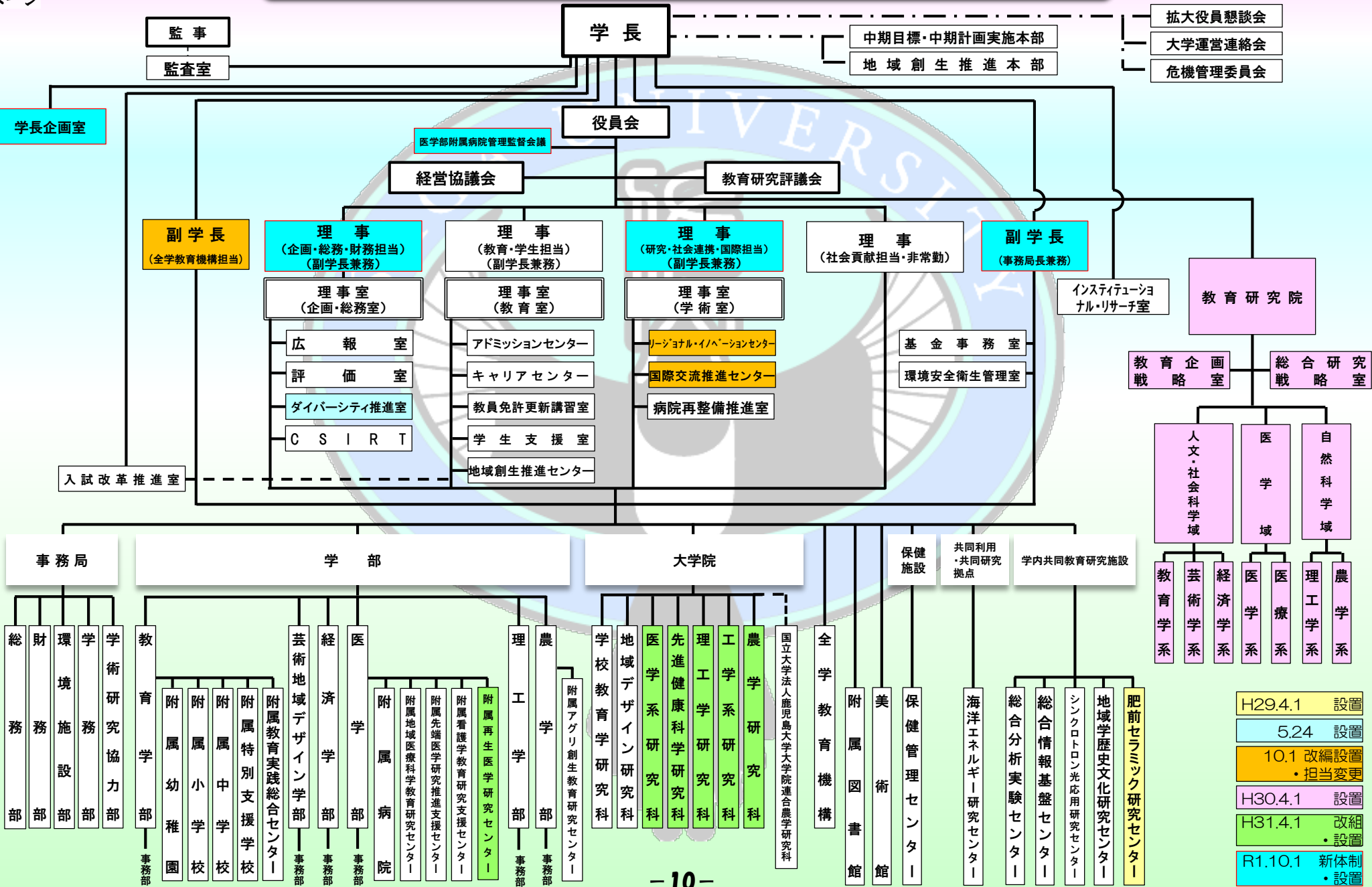
## 教育研究院(教員組織)



## 各部局等(教育組織)



# 大学機構図 - 令和元年10月 -



H29.4.1	設置
5.24	設置
10.1	改編設置・担当変更
H30.4.1	設置
H31.4.1	改組・設置
R1.10.1	新体制・設置



### 日本でここだけ！ 国立総合大学の「美術館」

佐賀大学と佐賀医科大学の統合10周年を記念して、平成25年10月2日に開館。

併せて整備された正門エリアとともに、新しい佐賀大学の顔として、開かれた、市民に愛される施設として様々な事業を行っています。



1階 大展示室

可動壁で仕切ること、様々な展示スタイルに対応可能なスペース。スタジオ部分はワークショップや講演会など多目的に活用できます。



2階 特別展示室

貴重な美術・博物資料、また調査した大学所蔵品などを随時紹介します



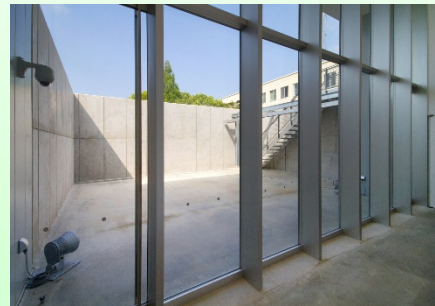
2階 小展示室

映像作品ほか、様々な用途に対応。外の廊下まで作品を展示できます



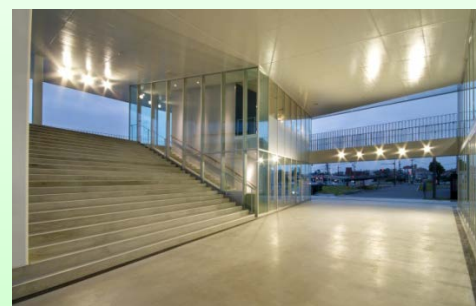
ブリッジ

窓の外を眺めたり、1階の展示を上から楽しむことができます



中庭

半屋外スペース。展示内容によっては野外制作や屋外展示にも



プロムナード

美術館と駐車場を結ぶプロムナード。ミニコンサート等も可能です



景観賞受賞

2015年に第18回佐賀市景観賞を受賞しました



## 各種イベントの様子

## 「ドローリング展2」



本学の芸術地域デザイン学部小木曾准教授の新作40点余を中心に、米村特任助教、ゼミの学生約10名の作品により構成された展覧会です。100点以上の作品を展示しました。会期中は小木曾准教授によるギャラリートークも開催し、多数の参加者に向けて、制作の裏話や作品への思いをお話しされました。

## 「佐賀の近代日本画展」



佐賀の「日本画」の始まりとして幕末・明治期から、現在までの日本画の様相を辿る展覧会です。佐賀における「日本画」がいかに変容してきたかを紹介し、同時に新しい絵画生成の場を示す試みを行いました。会期中は展覧会に関連した様々なイベントを開催し、多くの方にご参加いただきました。

## 「佐賀の近代日本画展」関連イベント



「佐賀大学と日本画」をテーマにシンポジウムを開催しました。3名のパネリストを招き、本学「特美」の日本画教室の思い出やこれからの佐賀の日本画について語っていただきました。シンポジウム終了後にはギャラリートークも行いました。



絵本の挿絵を使って、日本画を描く上で重要な「模写」に取り組むワークショップ。複雑に織り重なる線や面を注意深く観察しながらの模写は、想像以上に難しい作業でしたが、皆さん最後まで集中して制作に取り組んでくださいました。



レクチャー「浮世絵版画に見る西洋画法」をテーマに、西洋や中国の文化を積極的に受け入れながら発展した浮世絵の世界について、本学の芸術地域デザイン学部花田准教授にわかりやすくお話をいただきました。



東北芸術工科大学日本画コースの三瀬教授を招き、「東北画」の取り組みについてお話いただきました。後半は本学芸術地域デザイン学部の近藤講師と「現代の日本画をめぐる状況や地方で活動することについて」をテーマに対談をしていただきました。



ここからできること  
ここでしかできないこと

今後の美術館スケジュール（2019年度）※予定

- 4/2(火)～9/16(月・祝) 常設展 第1期 ※開催中
- 7/5(金)～15(月・祝) 佐大・小城市交流事業プレイバック展「鍋島元茂一父を支え小城を領す」
- 7/10(水)～15(月・祝) 発掘された佐賀2019
- 7/31(水)～8/8(木) 芸術表現基礎・地域デザイン基礎成果発表展

夏季休業 8/13(火)～15(木)

- 8月下旬～9月下旬 佐賀大学美術館主催展
- 9/28(土)～10/14(月・祝) S-YOUGA展4
- 10/1(火)～3/22(日) 常設展 第2期
- 10/17(木)～20(日) 佐賀大学公開講座「みんなの大学写真展」
- 10/24(木)～11/4(月・祝) JA共済 書道・ポスターコンクール
- 11/12(火)～17(日) 第9回 璞友会展
- 12/4(水)～8(日) 第60回 佐賀県学童美術展

佐賀大学美術館

THE SAGA UNIVERSITY ART MUSEUM

TEL 0952-28-8333 FAX 0952-28-8215

ホームページ <https://museum.saga-u.ac.jp/>

Facebookページ <https://www.facebook.com/sagau.museum>

開館時間 10:00～17:00 (入館は16:30まで)

休館日 月曜日 (祝日の場合は翌日) 夏期一斉休業, 冬期休業期間

入館料 無料

駐車場 無料 (美術館利用者優先駐車場 ※要受付)

佐賀大学美術館寄附募集中

佐賀大学では、佐賀大学美術館募金として、開館後も継続して美術館への寄附を募集しています。

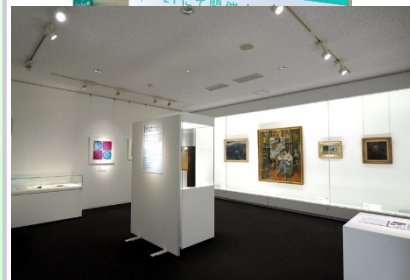
お寄せいただいた寄附金は、美術館建設費借入れの返済や運営資金として有効に活用させていただきます。

皆様のご協力ご支援の程よろしくお願いいたします。



「常設展示 第1期」展

平成25年の開館以来、佐賀大学美術館は本学の美術教員はじめ佐賀にゆかりのある作家達の芸術作品を収集し、現在は90点以上の作品を収蔵しています。



開館当初より飛躍的に収蔵品が増加した今、当館のコレクションを恒常的に学生はじめ地域の方々に一般公開し、佐賀や佐賀大学における美術の様相をご紹介します。

### 3. 経営協議会における外部委員からのご意見

#### 1 経営協議会における運用の工夫改善と法人運営への反映

- (1) 審議事項、報告事項は簡潔にわかりやすく迅速に (30分)      (3) 事前に資料 (現状、方針、データ等) を送付  
 (2) 毎回テーマを設け意見をいただく (60分)

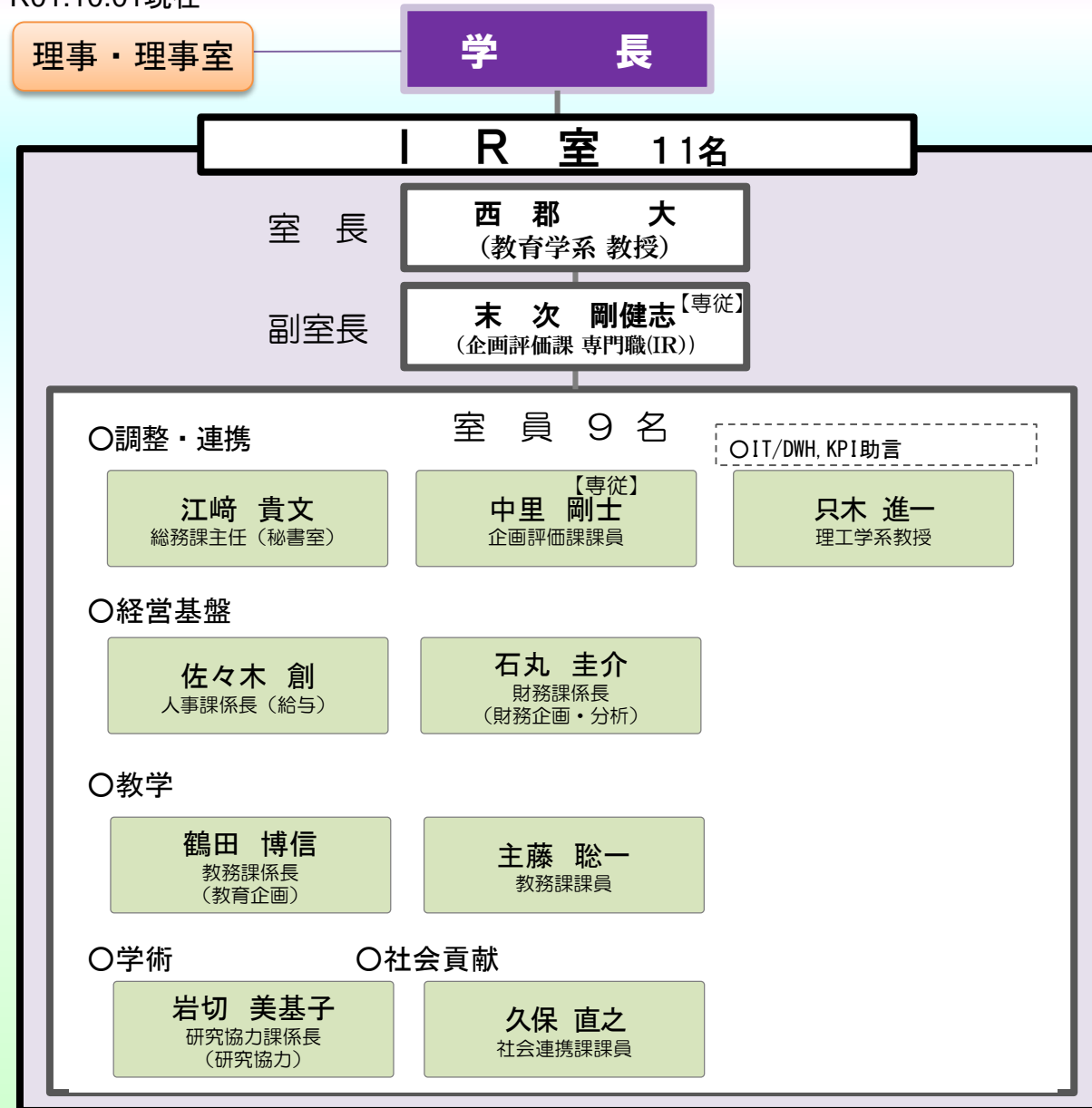
#### 2 これまでのテーマ等

開催日	テーマ等	大学運営に反映した事例・意見など
H28. 6. 3	<b>自主財源の確保に向けて</b> >国立大学法人等が実施することのできる「収益を伴う事業」の考え方をひまえて 等	企業を対象に大学教員による研修・教育。学内共有スペースの積極的なレンタル。寄附箱の設置。宿舎の売却等。
11. 21	<b>民間企業等の経営手法による大学業務の合理化・効率化</b> >学長をはじめとする執行部の経営方針 (意思) の構成員への浸透 等	ポイントを絞って効率的に伝える。経営トップとして理念を伝える姿勢。コンプライアンスの重要性を徹底 等。
H29. 1. 16	<b>民間企業等の経営手法による大学業務の合理化・効率化</b>	外部資金比率を高める必要性を全教職員に醸成。自主財源の確保に緊張感の中で取り組む等。
3. 6	<b>平成28年度の総括と次年度に向けて</b>	教職員・学生が広報活動の主体となり大学の意欲的な取り組みをPRする等。
6. 19	<b>10年後の佐賀大学にどうあってほしいか</b> >努力すべき方向性等	優秀な学生選抜、課題解決力の向上、大学だけではなく地域全体のブランド価値を上げる等
10. 24	<b>「国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議」報告書に対する本学の対応について</b>	教育学部の効率化、附属学校園の将来について検討中
H30. 1. 22	<b>この2年を振り返って</b>	入試面接のスキル向上、卒業生の意見の集約、第一次産業のイノベーション等
6. 25	<b>佐賀大学におけるイノベーション創出について</b>	農水産業の他ナノテクノロジーにもイノベーション創出の可能性
10. 22	<b>今後の美術館の活用について</b>	来場者増のための企画、環境、PRの検討、館内飲食を含めたスペース貸出による収益を目指す。
H31. 1. 21	<b>佐賀大学における強み・特色の伸長について</b>	大学再編・統合の形態に関わらず、強み・特色を定めて強化しておくことが必要。
3. 18	<b>今後の佐賀大学に期待するもの</b>	...

# 4. インスティテューショナル・リサーチ (IR) 室 ～ IR室体制とIRの高度化に向けて～



R01.10.01現在



## 拡充メンバー (情報収集機能)

- ### 四つの視点から情報収集
- 調整・連携 (秘書, IR)
  - コンプライアンス, 広報, 計画, 評価, 経営資源(人事)等
    - 総務課(副課長, 総務, 法務, 広報企画, 渉外)
    - 企画評価課(副課長, 中期計画, 大学評価)
    - 人事課(副課長, 専門職, 任用, 給与, 服務)
    - 情報管理課(専門職)
    - 医)総務課(副課長, 総務, 研究・評価, 人事)
  - 経営資源(財務, 施設), 病院経営等
    - 財務課(副課長, 総務, 財務企画・分析, 予算, 決算)
    - 経理調達課(副課長, 収入)
    - 企画管理課(副課長, 総務)
    - 医)経営管理課(副課長, 総務, 経営企画, 予算企画)
    - 医)医事課(副課長, 専門職, 医事)
  - 教育, 学生支援, 附属学校等
    - 教務課(副課長, 教務管理, 教育企画, 教務情報)
    - 学生生活課(副課長, 学生支援)
    - 入試課(入試実施, 入試広報)
    - 就職支援課(就職支援企画・実施, 就職情報収集・提供)
    - 教育)事務部(副事務長, 総務)
    - 医)学生課(副課長, 総務)
  - 研究支援, 社会連携, 国際交流等
    - 研究協力課(副課長, 研究協力)
    - 社会連携課(地域連携, 産学連携・知財)
    - 国際課(副課長, 国際企画)
    - 情報図書館課(副課長, 総務)
- ・副課長・専門職, 各課筆頭(総務), 業務システム運用等担当  
 ・各推進室等の担当 (広報室, 評価室等)  
 ・附属病院・附属学校関連  
 ・大学経営上必要な情報の管理・運用担当  
 ※上記拡充メンバーに入っていない担当へも, 必要に応じて情報収集を依頼

# 佐賀大学版 IR の高度化 に向けて (概要)

～経営戦略に必要なPDCA遂行のための支援体制～



大学の使命

目標・計画

マネジメント

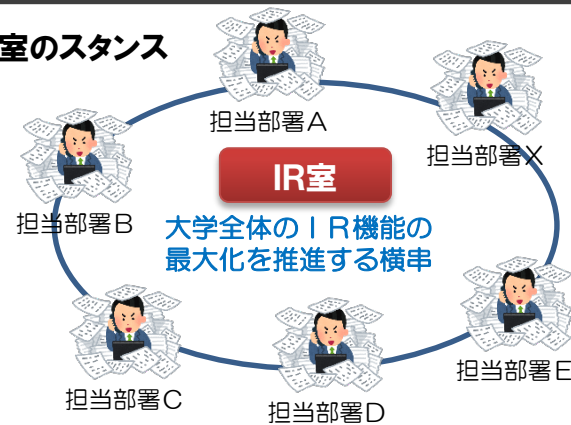


手法A  
手法B  
:  
:  
手法X

IRの基本コンセプト

「**情報提供機能**」と  
「**影響機能**」を軸とした  
**意思決定の支援**

IR室のスタンス



【前提】

IRはあくまでマネジメントの  
手段の1つ  
⇒ IRの高度化が目的ではない

IRの高度化?



高度化の  
方向性

【高度化の目的】

IRの高度化を通して  
**マネジメントを強化**すること

高度化①:「**計画達成**」と「**評価**」の一体的支援(KPI,QI)

計画遂行の進捗管理

評価に向けた対応

※ KPI,QI設定, 制度設計・評価支援

高度化②: **内部統制の支援**(アドホック対応→モニタリング)



大学運営連絡会

部局との情報共有, 意見交換

計画, 事業等の進捗管理

リスクの早期発見・対応

新たな取り組みへの展開

※ 理事室との連携, 情報提供, KPI・QIモニタリング支援

高度化③: **資源の最適化を支援**(資源獲得・配分, 仕組み構築支援)

固定的資源配分の見直し・再定義

例) 予算・人・施設等の配分根拠の見直し

流動的資源配分の見直し・再整理

例) 評価反映特別経費(事業・業務)  
インセンティブ配分根拠の提供  
成長戦略としての新規事業への配分根拠の提供

資源獲得のための情報提供等

例) 収益事業モデルの構築支援

高度化④: **データストックによる情報提供(公開)基盤の確立**

データウェアハウスの認識

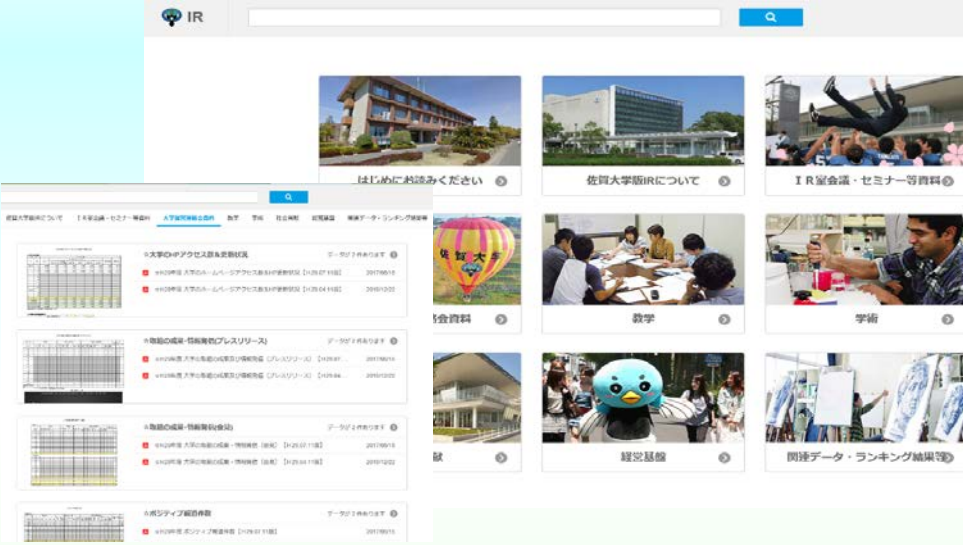
※ 情報提供のための基盤整備(Web改修支援含む)





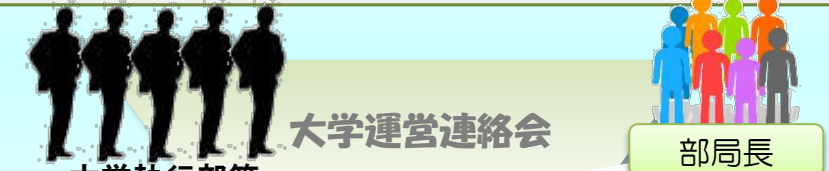
## 学内へのデータ公開～情報提供機能と影響機能～

作成データ、用語集などを学内教職員限定で公開



## 月例データの提供による情報共有

月例データを部局等へ提供し、大学全体の課題の共有や早期リスクの発見に繋げる



大学執行部等  
(学長, 理事, 監事等)  
【モニタリング】

- 【毎月の報告内容】
- 部局トピックス・KPI進捗
  - 月例報告データ現況分析
  - 課題点への部局対応状況 等

- KPI進捗の把握
- 原因解明, 改善等指示

【IRデータ情報提供(月例)】  
学生数等の基本データ, KPI 等

IR室

## 学長経費（評価反映特別経費）へのデータ活用

【活用例】 本学の特色、強みを生かした取組の推進、強化に向けたインセンティブの付与

### 【配分方針】

本学の特色、強みを生かした取組を推進するため、部局の当該取組とPDCAサイクルに基づく成果(アウトカム)に対する評価(事業の評価)及びIR機能を活用した情報に基づく評価を行い配分

### 【評価対象】

- (1) **事業の評価**  
教育や研究、社会貢献等の諸活動における部局の特色や強みを生かした取組とその成果
- (2) **業務の評価**  
部局における諸活動の成果に関する **IR室から提供する情報**

## IR関連書籍第二弾!! 「大学マネジメントとIR」 ～最適なKPIの設定を目指して～



2015.2  
佐賀大学前学長  
佛淵孝夫 著  
実業之日本社

【完売】



2015.9  
国立大学法人佐賀大学IR室 編集  
定価: 本体1,389円+税

本書は、定性的IR, QI, KPIを中心に  
マネジメントツールとしてのIRを解説

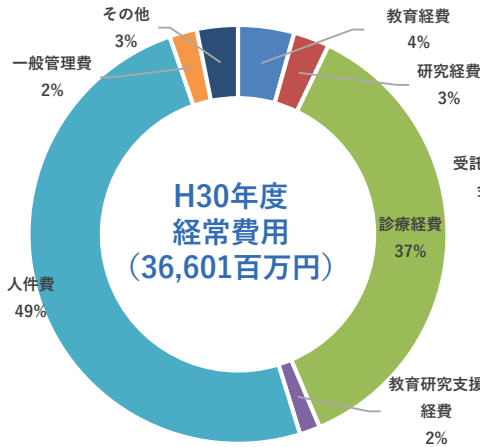
お問い合わせ・購入は、  
佐賀大学IR室

Tel:0952-28-8814 (直)

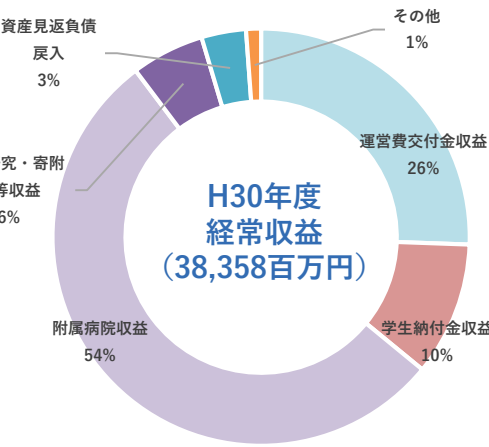
<http://www.saga-u.ac.jp/koho/common/201510274925>

# 5. 財務レポートと分析結果の活用

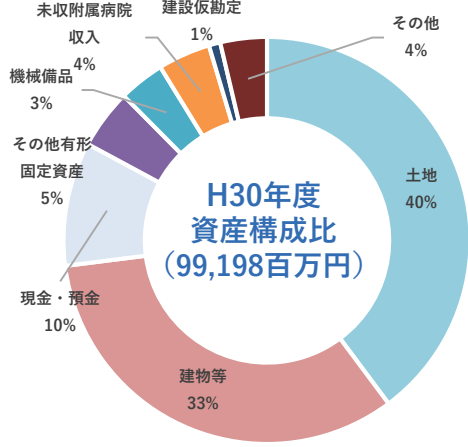
財務レポート2019【平成30年度の財務運営状況】  
平成30事業年度 経常費用・経常収益の概略・構成比率 (H30.4.1 ~ H31.3.31)



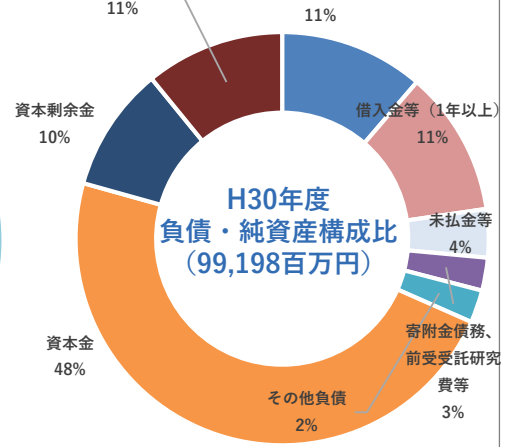
○経常費用の構成は、人件費が49%と半分以上を占め、次いで診療経費が37%、教育研究関連経費が9%、一般管理費が2%である。



○経常収益の構成は、運営費交付金収益が26%、授業料等、附属病院の各収益で64%を占めている。また、受託研究・寄附金等の収益は6%である。



○資産の構成は、土地及び建物等が73%と半分以上を占め、次いで現金・預金が10%である。



○負債・純資産の構成は、資本金が48%、利益剰余金が11%、次いで借入金等(一年以上)が11%を占めている。

○平成30年度における**当期総利益**は・・・  
**経常費用は**、前年度比2.4億円の減少で366.0億円、  
**経常収益は**、前年度比0.1億円の増加で383.5億円。  
この差額に臨時損失及び目的積立金取崩額を加えた  
**当期総利益は前年度比2.1億円増加の17.6億円。**

○平成30年度において改善した財務状況等の一例  
学生当教育経費 (H29 222千円/人 → H30 234千円/人)  
寄附金受入額 (H29 6.4億円 → H30 6.6億円)

⇒「財務レポート2019」では、平成30年度の決算の概要や財務指標等だけでなく、決算数値の根拠となった活動や事業を紹介しています。

ぜひご覧下さい！  
財務レポートHP：<http://www.saga-u.ac.jp/koukai/kokaizaimu.html>



# 2019年度予算編成における財務戦略

plan

【平成29年度の予算執行】

○教育・研究費率改善のため約4.7億円を執行

☞ 教育経費：約1.4億円を執行

☞ 研究経費：約0.5億円を執行

☞ その他：教育・研究を実施するための人件費や一般管理費に約2.8億円を執行

DO  
DO

【2019年度財務戦略】

○財務分析2018の分析結果を踏まえ、**学内資源の最適化、本学の特色・強みとなる教育研究活動**に対して重点的に予算計上することとした。

主な取組としては・・・

1 財務状況の改善  
設備整備関連経費

2 重点的施策(学内資源の最適化)  
①大学経営戦略実行経費  
②スペースチャージ料見合事業  
③評価反映特別経費  
④学長裁量定数経費

【検証結果(財務分析)】

○他大学とのベンチマーク：本学の外部資金比率は、他大学に劣っている

○更に詳細な財務分析を行った結果、教育経費、研究経費の減価償却費が他大学に比して少なく、それ以外の費用については、教育経費が他大学を上回っていた

→ 外部資金・人件費は継続的に注視

→ 教育経費はこれまでの増額投資により一定の効果

→ 一方で減価償却費が少ないことは、教育研究設備の更新が遅れていることを示唆

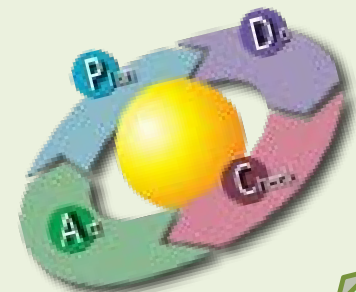
check

【財務指標値の改善や資源の最適化のために】

○特色・強みとなる**戦略的な人員配置**及び**外部資金の更なる獲得**のための体制整備が必要

○「ヒト・モノ・カネ・スペース」の最適化のための取り組みが必要。特にスペースについては**戦略的な施設マネジメント**の取り組み推進が必要

Action



## 佐賀大学ダイバーシティ推進宣言

21世紀は、あらゆる領域で「知」が社会活動の基盤になろうとしています。

佐賀大学は、佐賀大学憲章に基づき、新しい「知」を創造する教育研究の環境を整え、すべての構成員の英知を結集し、その総合力を最大限に発揮できるように努めています。

多様な背景を持つすべての人が、互いにその人権を尊重しつつ、自らの責任を自覚し、経験や価値観を「融合」することで新たな「知」が創生されます。そのためには、すべての人がその個性と能力を十分に発揮することができる魅力ある大学を実現させることが重要であり、自らの意思で多様な生き方を選択でき、そのことをお互いに認め合うことができる環境が必要です。

佐賀大学は、性別や性的指向、民族、国籍、宗教、年齢、障害の有無等による差別のない環境を実現するために、お互いの理解を深めます。そして、これまで意思決定の場に参画することが少なかったマイノリティの人たちも安心して学び、働き、活躍できる環境をつくるために、佐賀大学はダイバーシティを推進することを宣言します。

## ダイバーシティの推進

佐賀大学ダイバーシティ推進宣言、基本方針(H29.4.1)

## ダイバーシティ推進会議

学長、理事、部局長等

## ダイバーシティ推進室

## 男女共同参画の推進

男女共同参画宣言  
・ 基本方針

男女共同参画推進委員会

男女共同参画推進室

mission

・ 性別や性的指向、民族、国籍、宗教、年齢、障害の有無等による差別のない環境の実現に向けた相互理解の深化

mission

・ これまで意思決定の場に参画することが少なかったマイノリティの人たちも安心して学び、働き、活躍できる環境を整備

経営トップを核とした  
推進体制を構築



ダイバーシティ  
推進体制

## ダイバーシティ推進室

## 広報・環境整備部門

ライフイベントとの両立  
支援・ダイバーシティ  
(多様性)の理解啓発

## 研究支援部門

女性研究者等の研究支  
援・研究・調査

## 次世代育成部門

学生等(中高生を含  
む。)の啓発・裾野拡大

## 行動原則

ダイバーシティ  
推進宣言

ダイバーシティ  
基本方針

一般事業主  
行動計画

次世代育成支援  
行動計画

第3期中期計画  
【028】  
【055】

## 課題(数値目標)

## 国の政策

第3次男女共同参画  
基本計画(～平成27年度)

2020年までに指導的地位  
に女性が占める割合を少  
なくとも30%程度

第5期科学技術基本  
計画(平成28～30年度)

自然科学系女性研究者の  
新規採用割合を30%以上

第4次男女共同参画基  
本計画(平成28～30年度)

自然科学系女性研究者の新  
規採用割合を30%(理学系:  
20%,工学系:15%,農学系:30%,  
医学・歯学・薬学系:30%)

女性教員割合:  
教授等(学長,副学長及び  
教授)17%(早期)から20%  
准教授 25%(早期)から30%

## 取組と成果

## 取組

中期計画【028】

☆若手研究者や外国人・女性  
研究者をH27年度より10%  
増加

中期計画【055】

☆指導的地位に占める女性  
の割合15%以上

☆研究者補助

☆託児支援

☆オープンキャンパス

☆ジョイントセミナー

☆リケジョプラットフォーム  
in SAGA

## 成果

☆リケジョのミライ

☆ダイバーシティ推進に  
かかる実態調査実施  
報告書

☆大分大学との共同プロ  
ジェクト

## 7. 佐賀大学基金への寄附手続きの利便性向上

～教育・研究・社会貢献及び国際交流の一層の推進～

佐賀大学基金は、地域と共に未来に向けて発展し続ける大学を目指して、教育・研究・社会貢献及び国際交流の一層の推進を図ることを目的としています。大学が持続的に発展していくための安定的な財源確保に必要な不可欠なご支援です。ご寄附は、銀行窓口によるお振込みの他、クレジット決済などWEB決済システムもご利用いただけます。

### 佐賀大学基金

学生の教育、研究、海外活動、就学等の支援や若手研究者の学術研究や国際交流等の支援等に活用します。

### 佐賀大学美術館募金

2013年10月に誕生した「美術館」のより良い運営のために活用します。

### 院内保育所事業基金

附属病院の院内保育所「佐賀大学病院保育園キッズパレット」の運営のために活用します。

### 課外活動支援基金

学生の課外活動支援のために活用します。

### 修学支援基金

意欲・能力を持ちながら、経済的理由により修学が困難な学生を支援することを目的とし、授業料又は入学料の全部又は一部を支援する事業、奨学金を給付する事業を行います。



### 様々な形の寄附を受け付けています。

- 土地、建物、有価証券などの資産による寄附を受け付けています。
- 所有されている資産の一部を将来遺贈として寄附したいと思われる方へ、信託銀行と提携して手続きを行います。

### 本学へのご寄附に対しては、税制上の優遇措置が受けられます。

- ① 個人の皆様：※所得控除等、住民税控除（佐賀県内にお住まいの方）  
※修学支援基金へのご寄附については、確定申告の際に「所得控除」もしくは「税額控除」のいずれか有利な方を選択できます。
- ② 法人様：寄附金の全額を損金算入

詳しくは

佐賀大学基金 **検索**

から。



SAGA UNIVERSITY  
国立大学法人

佐賀大学基金

<http://www.kikin.saga-u.ac.jp/>

国立大学法人佐賀大学  
基金事務局  
(佐賀大学総務部内)

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地  
TEL 0952-28-8390/FAX 0952-28-8118  
9:00～12:00 13:00～17:00 土日祝除く  
E-Mail [kikin@mail.admin.saga-u.ac.jp](mailto:kikin@mail.admin.saga-u.ac.jp)

## 8. 高大接続改革プロジェクト（CBT入試、とびらプロジェクト）

**全国初のタブレットCBT入試を2018入試年度から実施**

《自動採点, 間違えたら再チャレンジ》 <http://www.saga-u.ac.jp/koho/common/2017120510167>

**佐賀大学版CBTシステム**

Saga University Computer Based Testing

**基礎学力・学習力テスト** (2019.11.29 理工学部, 農学部の推薦入試 (28人受験)で実施)



教科書の基礎レベル問題を幅広く問い、受験生の基礎学力を把握。  
即時採点 ⇒ 全問題解答後に自動採点。間違った問題については、問題を解くために必要な知識や考え方を示した解説を提示し、必要な知識や解き方等を学習した上で類題に再チャレンジ。類題を解ければ一定の「学習力」があるものとして評価するテスト。

これらの結果は、試験終了後の面接試験においても活用される。



試験開始前にタブレットの操作方法を確認する受験生

**基礎学力・学習能力**

開発したCBTシステムに関する技術を2件特許出願中。

**「佐賀大学版CBT」アプリ 販売開始**

(九州地区国立大学で導入決定)

**700社が出展！教育分野 日本最大の専門展**

**教育ITソリューションEXPO へ出展**

- 日本の教育分野における最大の展示会「第10回教育ITソリューションEXPO（通称：EDIX）」に(株)佐賀電算センターと共同出展
- 佐賀大学版CBTシステムを体験できる形で展示し、佐賀電算センターをとおして他機関向けに販売開始

■ 開催日時

日時：2019年6月19日（水）～ 21日（金）

10:00～18:00

場所：東京ビッグサイト 青海展示棟

費用：入場無料（事前登録制）

**思考力・判断力・表現力を問うテスト**

(2019.11.29-30 AO入試 I 理工学部理工学科(化学分野10人受験)、農学部生物資源科学科(国際・地域マネジメントコース7人受験)で実施)

動画活用による出題 ⇒ 時間軸、動態イメージでの出題により、ペーパーテストでは評価できない思考力等を問うテスト。理工学部と農学部のAO入試において実施。

**観察に基づく思考力・判断力・表現力**

**英語4技能テスト** (2019.9.25 AO入試 I 教育学部(英語分野14人受験)で実施)

英語4技能の測定に留まらない「コミュニケーション能力」の評価に重点を置く。デジタル技術のメリットをいかし、映像や資料等の組合せにより、対話的なコミュニケーションだけではなく、映像や資料の読み取りなどを踏まえた基礎的なプレゼンテーション能力も「コミュニケーション能力」の一部として評価。

**4技能, コミュニケーション能力**



## 佐賀大学 高大連携プロジェクト事業の展開

[http://www.sao.saga-u.ac.jp/admission\\_center/reform/tobira/](http://www.sao.saga-u.ac.jp/admission_center/reform/tobira/)

NEW

## 『アートへのとびら』 ～多様なアートのあり方を学ぶプログラム～

2019年度参加者：19名

2019年8月START

アートと地域と社会に関心がある県内の高校生を対象とした、アートの持つ多様性やアートの社会への力を学ぶことを目的としたプログラム

## 『教師へのとびら』 ～教師を目指す高校生の育成プログラム～

2019年度参加者：315名

高校3年間、大学4年間の7年間で「教師を育む」という発想に立った継続型・育成型のプログラム。特に、地域の教育に貢献できるような教師の育成を想定（平成26年度開始）



## 『科学へのとびら』 ～科学への興味・関心を高めるためのプログラム～

2019年度参加者：346名

理系分野に関心がある県内の高校生を対象に「科学」を発見・探求できる多面的な視点を育て、自らが知らなかった自身の適性や興味・関心を見つけることを目的としたプログラム（平成28年度開始）



## 『医療人へのとびら』 ～医師・看護師を目指す高校生の育成プログラム～

2019年度参加者：（医師）206名（看護師）126名

医師・看護師に興味・関心が高い高校生に各々の職業の魅力、医療人としての適性について考える機会を与え、将来の医療の担い手となる人材育成につなげることを目的としたプログラム（平成29年度開始）



## 『社会へのとびら』 ～社会への多様な視点とアプローチを身に付けるプログラム～

2019年度参加者：167名

社会で起きている様々なものごとや課題に関連する文献、新聞、資料などを読み解き、自らの考え、意見を論理的にまとめ、発信する基本的なスキルを身に付けることによって、社会科学分野への興味を涵養することを目的としたプログラム（平成30年度開始）





# 9. 全学教育機構の取り組み

— 佐賀大学学士力の保証のために —

## 全学教育機構(平成23年4月1日設置)

教養教育の充実

高等教育の改善

アドミッション及びキャリアとの連携

学部と共同して行う学士課程教育の質保証

留学生教育の充実

推進

保証

支援

学士課程:教養教育

学 士 力

学士課程:専門分野教育

### これまでの主な取組

#### ○全学統一英語能力テスト(TOEIC)

☆TOEIC-IPの全学生2回受験を義務化

英語力の維持・強化 → **グローバル人材の育成**

- ☞ eラーニングによる英語教材の提供
- ☞ TOEICスコアアップ講座の開講
- ☞ 受験料を大学が負担

サポート体制

#### ○全学共有自学自習システムの導入(H26.3)

☆出席管理システム

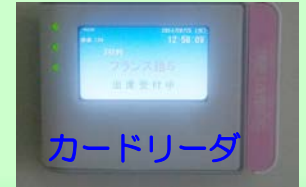
出席情報登録・参照を実現

→ **学生支援の充実**

☆講義収録システム

講義履修者へ学内外からの視聴を実現

→ **自学自習の支援**



#### ○ポートフォリオ学習支援統合システムによる学修支援

ティーチングポートフォリオ, ラーニングポートフォリオ,  
チューター指導, 大学院教育研究指導, 教職カルテ

#### ○大学院教養教育プログラムの検討(H30.4)

現代及び将来の国際社会・地域社会において、専門分野を問わず必要とされる高度な教養としての知識及び能力を教授する。

#### ○教養教育2号館改修(H30.4.1)



外観(正門側から)



アクティブラーニング教室



リフレッシュルーム

#### ○サブスペシャルティプログラムを構築中(H31.4)

インターフェースの新しいコースとして、「サブスペシャルティコース」を置く。  
そのコースと2科目程度を履修して、「副専攻」とする。

# 本学e-ラーニングスタジオで培われてきた スキルとノウハウ

21世紀型の知的コンテンツ産業界を視野  
デジタル表現技術を自らの学びと研究領域に  
アートやデザイン等の能力を新しい表現分野として

デジタルコンテンツ  
作成支援・管理

eラーニング関連  
教材作成・支援

学内各部局や地域  
の団体等との連携

## デジタル表現技術者養成プログラム

全学の学生(募集40名)対象



クリエイター能力, キャリアデザイン・コミュニケーション, 映像

## 芸術地域デザイン学部 コンテンツデザイン授業及び研究支援

情報デザイン, コンテンツデザイン, 映像デザインの教材開発や教育支援  
アート × デジタル = シナジー



授業風景



企画展示



学生作品



専門教育  
教育 医  
芸術 理工  
経済 農



## Subspecialty教育で何を身につける？

Society5.0に向けた対応能力  
COCの中核的人材としての対応力  
教養知識の獲得と応用する力  
グローバル化への対応力



デジタル・コンテンツ  
作成力養成



芸術を嗜む  
(学ぶ)



IoTプログラミング・  
データサイエンス



農業実習  
(野菜・果樹)



ネイティブ英語演習

医療英会話 易しいサイエンス



日本と世界との歴史の  
関連性を横軸で学ぶ



もうひとつの自分を探そう

平成20年度文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム」に採択された優れた教育プログラムで、全学部の学生を対象として開講している学習プログラム。

所属学部の専門科目を履修しつつ、2年間でデジタル表現技術分野の科目を履修。デジタルコンテンツの理論から演習による作品制作の実践まで幅広く学習することで、これからの**高度情報化社会のニーズに対応できる能力を持った人材の育成**を目指す。

### 科目名一覧

#### 【必修科目】

- ・映像・デジタル表現Ⅰ  
(デジタル表現入門)
- ・映像・デジタル表現Ⅱ  
(アニメーション表現)
- ・映像・デジタル表現Ⅲ  
(コンピュータ・グラフィックス表現)
- ・映像・デジタル表現Ⅳ  
(デジタル表現修了研究)

- ・Web表現
- ・映像表現
- ・プログラミング表現
- ・デジタルメディア・デザイン

#### 【選択科目】

- ・インストラクショナル・デザイン
- ・情報メディアと倫理
- ・画像へのアプローチ
- ・映画製作
- ・プロデューサー原論
- ・身体表現入門
- ・教育デジタル表現
- ・デジタル表現技法
- ・シナリオ入門
- ・立体アニメーション入門

### 履修希望者数

開講年度	履修希望者数	履修許可数
2009	142	40
2010	160	43
2011	144	43
2012	118	44
2013	124	43
2014	83	40
2015	79	37
2016	93	46
2017	83	47
2018	36	36

### 受賞歴

- ・日韓海峡映画祭・映像づくり若者交流キャンプ 最優秀賞
- ・第7回学生国際ショートムービー映画祭 監督賞
- ・北信濃小布施映画祭 審査員特別賞
- ・つくっとサガ アワード2011 動画部門  
ゴールド賞 ブロンズ賞
- ・佐賀市映像コンテスト 2012 銀賞 特別賞
- ・第1回サガテレビCMコンテスト グランプリ
- ・第2回サガテレビCMコンテスト 準グランプリ
- ・福岡インディペンデント映画祭2013  
奨励賞・美術賞
- ・第2回佐賀大学コンテンツデザインコンテスト  
学生部門 最優秀賞
- ・第2回データビジネス創造コンテスト最優秀賞
- ・第1回TYOムービーアワード 金賞
- ・「新・木造の家 設計コンペ」林野庁長官賞 他

第9期生の修了作品展(2019.3)



本プログラムは2019年度より、更に時代のニーズに応えた内容の“クリエイティブ表現プログラム”として新しく生まれ変わる予定。

# 11. 学生への経済支援

## 入学料・授業料免除

経済的理由で入学料・授業料の納付が困難で、かつ学業優秀と認められる学生には、**納付額を免除(全額又は半額)**する制度です。

## ★平成28年熊本地震に伴う入学料及び授業料免除

平成28年4月に発生した熊本地震により被災した学生に対する経済支援として、**平成30年度入学料及び授業料**の特別免除を実施しました。

### 平成30年度免除実績

区分	学部	大学院	計
授業料全額免除	1,152人	233人	1,385人
// 半額免除	304人	81人	385人
入学料全額免除	0人	0人	0人
// 半額免除	0人	23人	23人

区分	学部	大学院	計
授業料全額免除	41人	0人	41人
// 半額免除	0人	0人	0人
入学料全額免除	2人	0人	2人
// 半額免除	0人	0人	0人

## 奨学金制度

### 日本学生支援機構奨学金（平成30年9月現在）

- 学部（第一種 [利子無] 1,659人，第二種 [利子有] 1,174人）**••学部生の約 47.6%**
- 大学院（第一種 [利子無] 252人，第二種 [利子有] 28人）**••大学院生の約 34.4%**



- ◆ かささぎ奨学金は、本学独自の制度で給付型奨学金（返還の必要なし）
- ◆ この制度の目的は、本学に入学を強く希望する成績優秀な学生に対し、一定の条件のもとに在学期間中も給付を継続することにより、学生の勉学意欲及び修学環境の向上並びに本学学生の模範となるような優れた人材を育成すること

入学を希望する優秀な学生に対し、入学前から奨学金支給を約束。

資 格	●一般入試（前期日程・後期日程）を受験し合格した者のうち、成績上位の者
支給額・給付期間	年額30万円×4年間（医学部医学科は6年間）
採用予定者数	14名程度
採用候補者の選考方法	◆一般入試 各学部毎の入学試験の成績優秀者



2019年度授与式 入学式にて

- ◆ 合格者数と採用数（平成31年度新入生）

単位（人）

平成31年度 新入生 (前期・後期 日程)	学 部	教 育	芸術地域 デザイン	経 済	医	理 工	農	合 計
合格者		106	83	264	104	448	126	1131
採用数		2	2	3	2	3	2	14

# 12. AI学生支援システム活用プロジェクト(佐大×木村情報技術)



教学IRデータ  
分析・対策、  
可視化等が必要



IRデータ

大学の情報何を見たらいいの？  
手続きが多いし、  
時間もかかる。



学生

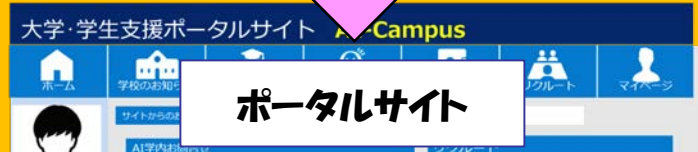
どんな会社があるの？  
自分に合った  
会社かな？



とびらシリーズの受講生・  
受講希望者

AIによる  
Q&A

ラーニングポートフォリオ等



AIを活用した

- 「面倒見の良い大学」として
- 生涯「キャリアパス」として

問い合わせAIプログラム  
など



質の高い動画配信

手続情報、学内情報  
業務省力化

企業情報等  
マッチング

⇒ 我社に合った優秀な  
人材がほしい。

- ⇒ 情報収集は大変
- ⇒ 学生情報が集約  
しづらい
- ⇒ 学生支援に人手  
が足りない



大学

採用者ニーズや研究  
開発ニーズの把握・  
調査が常に必要

- ⇒ 大学での人材育成はどんな感じ  
かな？
- ⇒ 共同開発できる研究はないかな？



企業



学生の就職を人工知能で支援するシステム開発で、  
協定を結ぶ 木村情報技術(株)木村代表取締役(左)と  
宮崎学長(右) 2018.3.20

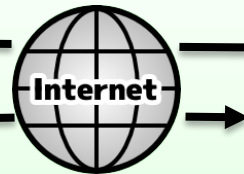
# AI活用学生支援プロジェクト

## 『AIヘルプデスク』について ～AI（人工知能）を活用した問い合わせサービス～

- ◆本システムは、入試、学生生活、教務、就職支援に関する様々な質問にAIが24時間365日いつでも回答
- ◆佐賀大学と木村情報技術株式会社との「人工知能(AI)による学生支援システム開発研究の協定書」締結
- ◆平成30年7月30日からシステムの運用開始
- ◆自然言語を理解し回答するAIチャットボットを受験生向けとして大学ウェブサイト上に設置することは国内の大学として初めての取り組み



①学生・志願者・保護者による質問



③学生・志願者・保護者への回答



## AI人工知能

会話ログ

質問・回答 DB

② IBM Watsonによる分析、学習、回答

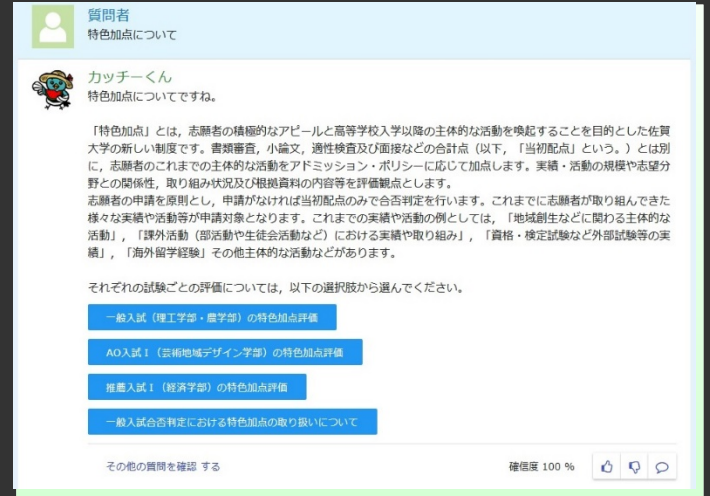
佐賀大学 木村情報技術株式会社  
AI-Campus

AIヘルプデスク

佐賀大学へ様々なご質問に  
AI（人工知能）が24時間365日  
いつでもお答えします!!



(2018.7.30  
スタート)





# 13. ラーニング・コモンズと附属図書館の取り組み

～能動的な学びを促す新空間～

附属図書館は、「知に出会う」「ともに学び、創造する」「さまざまな居場所」をコンセプトに**ラーニング・コモンズ**(学びの空間)を整備し、**教育・学術研究の支援活動、地域貢献活動**に取り組んでいます。



## 図書館オリエンテーション・講習会

授業の1コマを利用して、新入生向けの図書館オリエンテーションを実施しています。

### 【本館】

図書館の利用方法について、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた内容

(令和元年4月～6月の参加者数 1,018名)

### 【医学分館】

館内案内や OPAC (蔵書検索)  
My Library (図書館ポータル)  
の使い方

(令和元年4月の参加者数 166名)

また、学部3年生以上向けを対象とした講習会として、文献データベースの検索や文献の入手方法を中心とした演習も行っています。7月以降もご要望に応じて実施いたしますので、どうぞ、ご利用ください。



講習会の様子

## 書架のリフレッシュ

ラーニング・コモンズで図書の企画展示をしたり、利用度の低い図書を新しい図書と入れ替えて書架をリフレッシュすることによって、学生による図書の利活用を促進しています。



図書の展示風景

## 研究成果の発信

教員や大学院生等の研究成果をラーニング・コモンズに展示し、研究成果の発信を支援しています。よりテーマに関心を持ってもらうため、関連図書の展示も行っています。



「雲仙・島原の多文化研究学内報告会」の研究成果と関連図書の展示風景

## 毎年11月に「図書館月間」を開催

市民の方の生涯学習の場になればという思いから、平成13年度から「図書館月間」を開催しています。平成30年度は、「逢いに来んしゃい！佐賀大学の「宝」の数々にー小城鍋島家のコレクションをわかりやすくご紹介しますー」をテーマとして、11月25日(日)に講演会や関連のイベントを開催しました。

また、期間中には、テーマに関連した資料展示も行いました。



イベントの様子  
(七絃琴の演奏)

令和元年度は「旧制佐賀高等学校・師範学校アーカイブズ」(仮題)をテーマとして開催予定です。

附属図書館のホームページ <https://www.lib.saga-u.ac.jp/>



## 14. 「明日の社会」を創造する研究の推進

## 重点領域研究

有明海，佐賀学，エネルギー，シンクロトロン，地域医療研究とともに，芸術・デザイン，バイオ・健康等の新たな領域の研究体制を整備

## 有明海



有明海沿岸の  
環境再生に関  
する研究

## 佐賀学



佐賀という地  
域に特化した  
歴史・文化の  
探求

## エネルギー



省エネルギー  
社会実現のた  
めの電力変換  
の高効率化  
etc.

## シンクロトロン



DNAの分析，  
半導体の開発  
等に関する応  
用研究

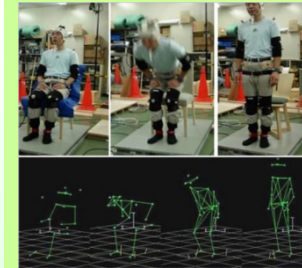
## 海洋エネルギー研究

(文部科学省 共同利用・共同研究拠点)



海洋温度差，波力，潮流，洋上風力  
などの海洋再生可能エネルギーの発  
電に関する研究

## 地域医療研究



高齢者や障がい  
者の生活・仕事  
復帰の支援な  
ど，地域医療の  
高度化

## バイオ・健康



バイオ技術を  
活用した新し  
い機能性食品  
や化粧品開発  
etc.

## 芸術・デザイン



芸術を通して  
地域創生に貢  
献する人材の  
育成etc.

# 共同利用・共同研究拠点 海洋エネルギー研究センターの取り組み

～平成22年度4月から全国の共同利用・共同研究拠点として文部科学省に認定されています～

## Ocean Power Energy

海にはロマンとエネルギーの未来がある

2017年10月 改組しました / Reorganized in Oct. 2017.

### Ocean Thermal Energy Conversion

海の表層と深層の温度差を利用して発電します

### Offshore Wind Energy Conversion

洋上の風力エネルギーを利用して発電します

### Wave Energy Conversion

海の波の持つエネルギーを用いて発電します

### Hydrogen Production

化石燃料に代わる存在として注目を集める水素を燃料として利用します

### Tidal and Ocean Current Energy Conversion

潮流および海流のエネルギーを利用して発電します

### Deep Ocean Water

深海に流れる深層水を、様々の分野で利用します

# 肥前セラミック研究センター（平成29年4月）設置

芸術と科学の融合による「やきものイノベーション」の創出

肥前陶磁(有田焼, 伊万里焼, 唐津焼など)の“**伝統的技術・工芸**”とファインセラミックスの  
”**先進技術**”の要素を組み合わせた**素材開発**, **やきもの表現活動**や**プロダクトデザイン研究開発**  
⇒人材育成及び地域活性化

## 学内

学部, 研究科, 研究センター, プロジェクト研究所等の  
教員, 研究者, 学生  
etc



PRODUCT DESIGN  
& ARTS

プロダクトデザイン・アート部門  
多面的・総合的に やきものを  
創造しデザインする

CERAMIC SCIENCE

セラミックサイエンス部門  
やきものの科学的研究と  
新やきものの創製



# 肥前

## CERAMIC RESEARCH CENTER OF SAGA UNIVERSITY

MANAGEMENT

マネジメント部門  
肥前陶磁器産業研究と  
まちづくりへの貢献



## 地域・国内

佐賀県  
窯業技術センター,  
九州陶磁文化館,  
各種事業  
企業, NPO  
etc



佐賀県 有田町の町並み

海外 大学, 研究機関, 企業 etc



佐賀大学肥前セラミック研究センター

HP: <http://www.hizen-cera.crc.saga-u.ac.jp/>



## 九州シンクロトロン光活用拠点における イノベーション技術開発と人材育成

九州唯一のシンクロトロン光利用拠点

広域連携を用いた  
次世代イノベーション技術開発研究

国際的視野を備えた理工系人材の育成

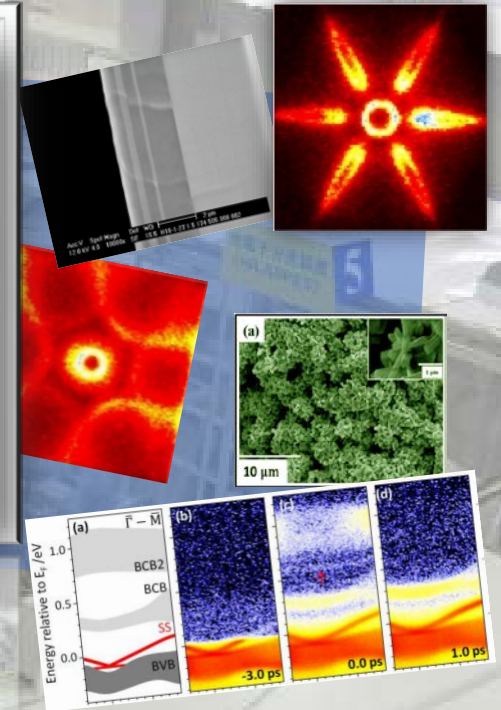


高効率エネルギー  
変換デバイスの創生

それぞれの連携とフィードバックにより  
社会的課題解決型デバイスのための革新的イノベーション技術を開発

シンクロトロン光による ナノ  
スケール表面界面電子状態の観測

超高速現象 計測技術の開発

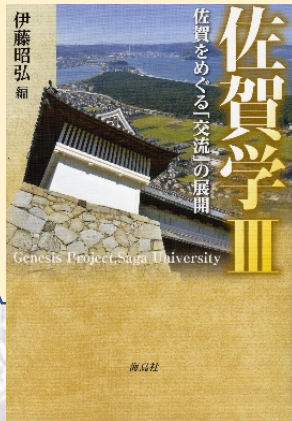


# 地域学歴史文化研究センター（平成18年4月設置）

佐賀地域の歴史・文化について、独自性・普遍性を追求し、研究成果を学生教育や地域社会に還元する

## 出版

研究成果を論文集・資料集のかたちで公開



## 公開講座・シンポジウム

最新の研究成果を報告



## 展示

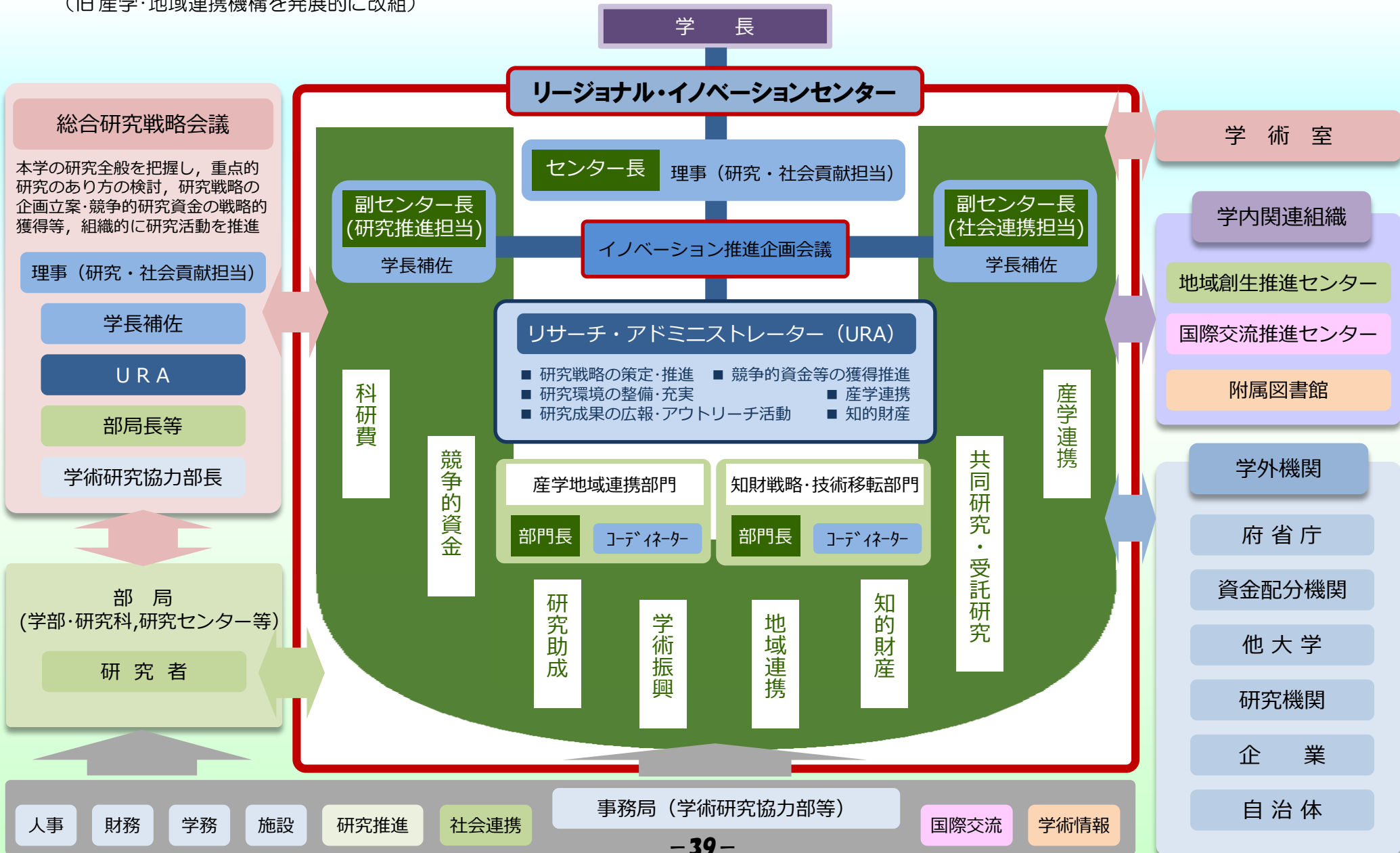
研究に活用した古文書・文化財を市民に紹介



佐賀大学地域学歴史文化研究センター  
E-mail : [chirebun@ml.cc.saga-u.ac.jp](mailto:chirebun@ml.cc.saga-u.ac.jp)  
HP : <http://www.chiikigaku.saga-u.ac.jp/>

# 15. リージョナル・イノベーションセンターの設置 (2017.10.1)

地(知)の中核的拠点として研究・産学連携の機能強化を図るため、URAを組織化したヘッドクォーター体制を構築し、イノベーション創出を推進 (旧産学・地域連携機構を発展的に改組)



# 16. エスタブリッシュド・フェロー

佐賀大学では、研究の活性化のため、研究における報奨制度を導入し、研究における評価を可視化することを目的として、佐賀大学エスタブリッシュド・フェロー（Established Fellow：卓越研究者）の制度を平成29年度新たに創設し、6人の研究者を第1期(平成29～31年度)佐賀大学エスタブリッシュド・フェローとして選考しました。

選考に当たっては、過去6年間の、科研費採択状況、外部資金獲得額、法人評価における研究業績、博士課程における研究指導学生数などを評価項目とし、これらをポイント化することにより行いました。

本制度を契機に研究者が学術研究に切磋琢磨し、本学の研究の高度化と活性化につながることを期待しています。

## ★★ エスタブリッシュド・フェローとは ★★

個人研究のみならず学際領域研究の組織的研究の中核的な人材。本学における研究等の分野において先駆的・先導的役割を担う。

第1期 佐賀大学エスタブリッシュド・フェローの選考理由等

氏名	所属・職名	選考理由等
木村晋也	医学部教授	外部資金の獲得が著しく、科研費では基盤研究(C)獲得の実績を有するとともに、博士後期課程の学生指導においても多大な貢献をしている。 また、「ABL阻害剤の中止」に関する研究成果は、社会的に注目され、日本経済新聞、読売新聞など多数のメディアで紹介されている。
田中とおる	工学系研究科教授	科研費の若手研究(B)、基盤研究(B)をそれぞれ一回獲得するとともに、外部資金の獲得も著しく、工学系の若手研究者として活躍が顕著である。 また、「次世代の超高効率・低コスト太陽電池の開発」で得られたZnTeO中間バンド太陽電池について、その実現可能性を明確に示した研究成果で国際的に高い評価を得ている。
三島のおおたけ	工学系研究科教授	科研費の基盤研究(B)、基盤研究(C)、挑戦的萌芽研究をそれぞれ獲得し、その研究成果は多くの論文として発表している。 また、「歴史的な地方都市における災害時要援護者を視野においた避難ルート計画に関する一連の研究」は防災分野で国際的に高く評価され、日本学術振興会の二国間共同研究に発展している。
鈴木あきひろ	農学部教授	科研費の獲得に意欲的に取り組み、基盤研究(B)を一回と挑戦的萌芽研究を三回獲得し、際立った実績を上げている。 また、「マメ科植物の根粒形成に及ぼす光質の影響に関する研究」を国際的に先導し、その成果は国内に留まらず国際的に高く評価される論文となっている。
早川洋一	農学部教授	科研費の基盤研究(A)、基盤研究(B)をそれぞれ一回、挑戦的萌芽研究を三回獲得し、本学における科研費の獲得実績は特筆すべきものがある。 また、ほ乳類の免疫系タンパク質で報告されているITAMモチーフ構造を昆虫のサイトカイン受容体アダプターにおいて発見し、基礎医学分野における生理的機能解析とITAMモチーフの進化・比較研究に多大な寄与があり、国際的な研究成果となっている。
永田しゅういち	海洋エネルギー研究センター教授	外部資金の獲得に意欲的に取り組み、科研費においては基盤研究(B)を獲得している。 また、「空気タービンを用いる振動水中型波力発電装置の開発」では世界最高効率の空気タービンを用いた波力発電装置として高く評価され、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の波力発電プロジェクトで採用されている。 さらに、「渦法に基づく粘性流体解析法」の開発に基づく論文は、日本船舶海洋工学会賞(論文賞)、日本造船工業会賞及び日本海事協会賞の3賞を受賞している。



(後列左から) 児玉理事, 寺本理事, 後藤理事, 和田理事

(前列左から) 木村教授, 田中教授, 三島教授, 宮崎学長, 鈴木教授, 早川教授, 永田教授

(平成29年10月撮影)



# 17. 研究基盤共用促進チーム・総合分析実験センター

JST「平成30年度 先端研究基盤共用促進事業(新たな共用システム導入支援プログラム)」採択

本学は文部科学省の「平成30年度 先端研究基盤共用促進事業(新たな共用システム導入支援プログラム)」に採択され、研究基盤共用促進チーム(Team Synergy)を立ち上げました。総合分析実験センターと協力し、共用化した研究設備を学内の教職員・学生に利用して頂くことで、佐賀大学の研究・教育の発展に貢献します。また、学外の方に利用して頂くことで、佐賀大学が地域創生・活性化の核となることを目指します。

➔ Team Synergy <http://www.synergy.saga-u.ac.jp/index.html>

➔ 総合分析実験センター <http://www.iac.saga-u.ac.jp/index.html>

## 共用化の取り組み

**NEW** 2019年4月1日 学外利用開始

利用方法はコチラから!

学外利用者が自身で測定を行うことができる取り組みです。利用してみたい研究設備や、やってみたい分析がありましたら、どうぞ気軽にお問い合わせください。



「やりたい!」「どうしよう?」に答えます

技術  
相談  
設備  
利用  
共同  
研究



**実績**

利用相談 25件  
利用企業等 4件

2019/11現在

## 研究活性化への取組

両キャンパスで月1~2回のセミナーを企画  
16回開催 (12月現在)

第7回総合分析実験センターセミナー  
BD FACSTセミナー

2019年6月25日(水) 15:00~16:00

佐賀大学研究設備部2287室 セミナー室

参加費 無料 (日本へ向かう航空券は別)

BD (BioData) logo

Team Synergy セミナー  
4K新型デジタルマイクロスコープ  
セミナー&デモ

2019年8月1日(木) 13:00~14:40

場所: 佐賀大学工学部総合実験センター1室1

講師: 島原 洋彦 (株式会社オムニス)

BD logo

第10回 Synergy セミナー  
次世代シーケンスセミナー

2019年12月13日(金) 16:30~17:30

会場: 佐賀大学 基幹総合実験室 (1号棟1階)

講師: Navogen Co., Ltd. 中川 孝之介 サポートマネージャー

Navogen logo

第10回 Synergy セミナー  
味覚装置活用セミナー

2019年12月13日(金) 16:30~17:30

会場: 佐賀大学 基幹総合実験室 (1号棟1階)

講師: WIDEWAY (株) 佐藤 健一

味覚装置活用セミナー

学内教職員・学生の  
連携を目指し  
**リサーチサロン**  
始めました



「やりたい!どうしよう?」に答えます  
佐賀大学研究設備学外利用  
キックオフシンポジウム

令和元年7月12日(金) 15:00~17:00  
佐賀大学理工学部6号館之南多目的セミナー室

VARIAN logo

2019年7月12日  
佐賀大学研究設備学外利用  
キックオフシンポジウム開催

参加者 総勢119名(学外 63名)  
学内外から多くの方にご参加いただきました。  
今後、佐賀大学という場に多くの  
「ひらめき」が集まることを期待しています。



つぎは U5Mx  
**リサーチサロン**

DATE  
2019年9月20日(木)  
15:30~17:00

PLACE  
本庄キャンパス  
養の 実会館  
1階 多目的室

15:30 理工学  
化学部門 准教授 森真太郎  
オンデマンド測定を可能とする温度応答型顕微鏡システムの開発  
本邦では、ナノスケールの感温高分子薄膜(ナノゲル)を用いることで高感  
度な温度変化の検出が可能となる。

16:00 農学  
生物資源科学科 助教 堀谷正樹  
南極好冷細菌由来酵素をいかにして低温環境に適合しているか  
電子スピン共鳴法で「観る」動的構造解析  
地球上で多くみられる細菌は、その環境に適した生物体を持っています。これ  
を「観る」ことでその環境から得られる知見が、新しい「観る」技術によって得ら  
れはまり込んでいます。講義ではタンパク質の動的構造解析から観るがけにした  
低温顕微鏡を用いたナノスケールの観る技術について。

16:30 医学  
人工関節学講座 准教授 河野俊介  
抗炎症人工股関節の開発  
最先端プロジェクトによる世界的なメイトリス抗炎症人工股関節手術にて

CONTACT  
総合分析実験センター 研究基盤共用促進チーム  
TEL: 0952-28-8896 Mail: synergy@iac.saga-u.ac.jp  
本セミナーは総合分析実験センターのF015Dセミナーとしても開催されます。

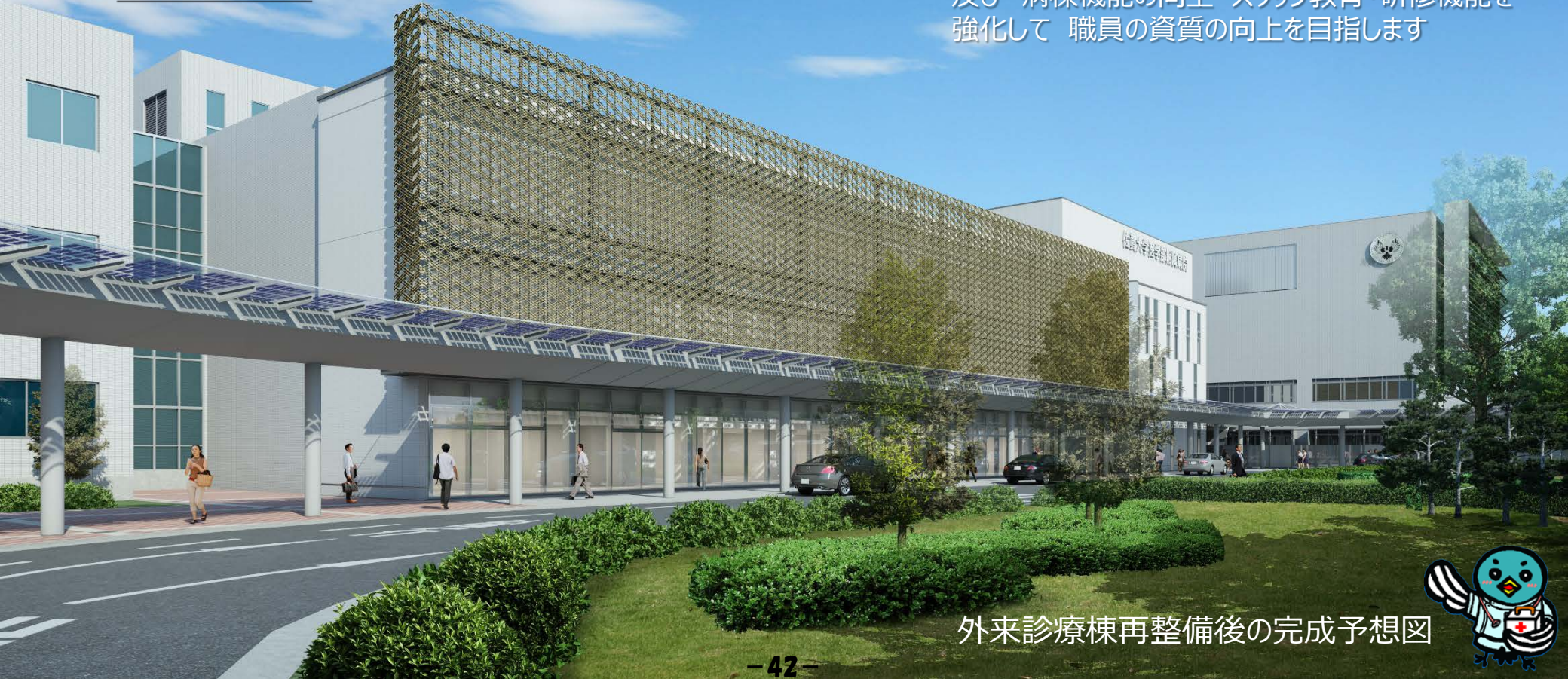
# 18. 医学部附属病院の再整備

## 再整備計画の基本理念

- ◆ 近未来・高度医療への対応
- ◆ 地域医療への貢献
- ◆ 教育・研究機能の強化
- ◆ 病院管理・運営の効率化
- ◆ 地球環境への配慮

佐賀大学では より一層地域医療へ貢献し  
質の高い医療の提供を 確実に進めていくため  
医学部附属病院の再整備を計画

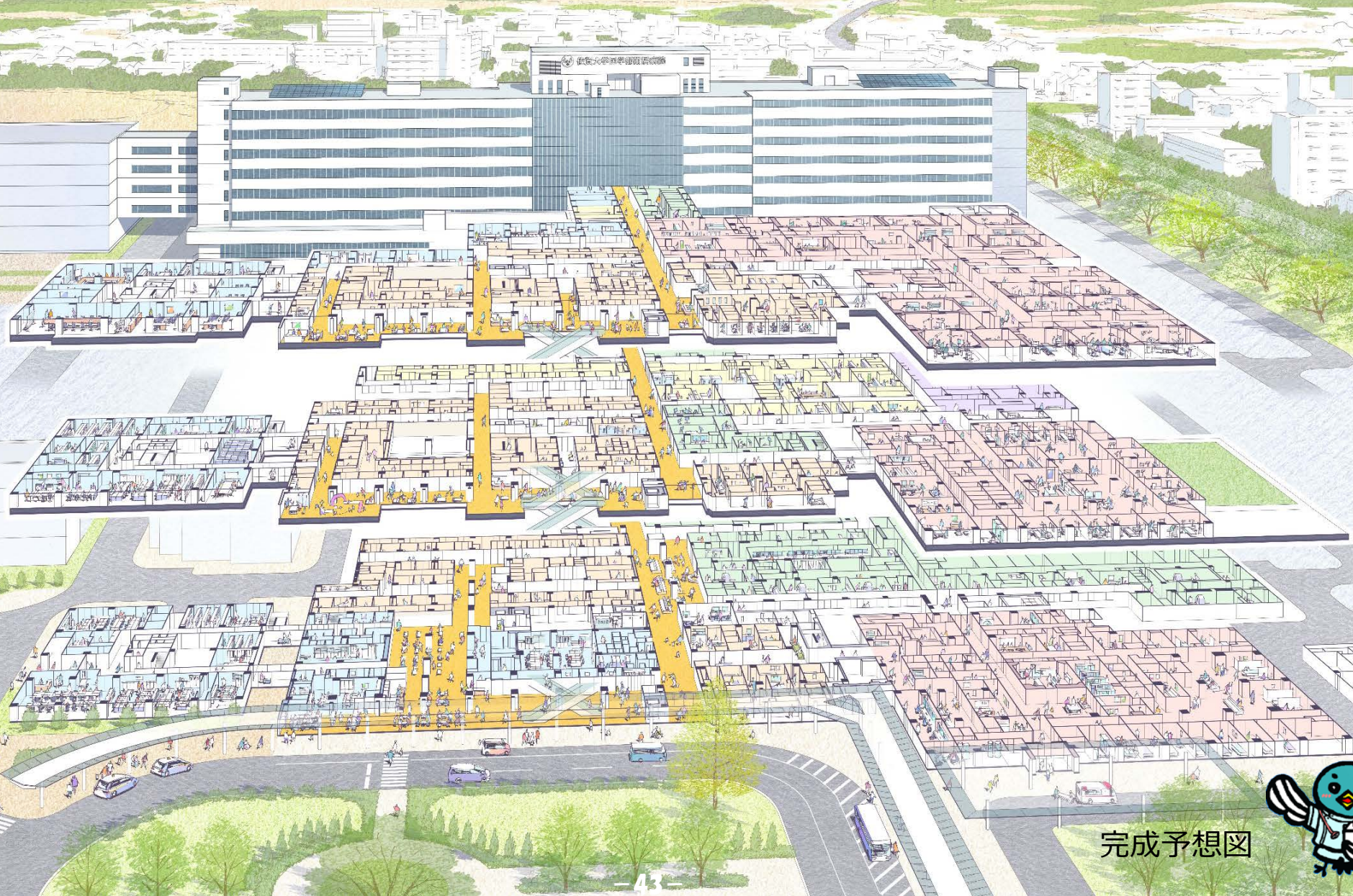
地域の基幹病院としてのスペースの確保  
質の高い医療を目指した中央診療機能の拡充  
及び 病棟機能の向上 スタッフ教育・研修機能を  
強化して 職員の資質の向上を目指します



外来診療棟再整備後の完成予想図



# 地域に密着したエコロジー適合・近未来高度医療機能病院へ



完成予想図





病院理念 ⇒ 患者・医療人に選ばれる病院を目指して

病院目標 ⇒ 「地域医療への貢献」、「良き医療人の養成」及び「高度医療技術の開発研究」

## 病院再整備からのお知らせ

平成30年度より外来診療棟の改修工事を開始しておりましたが、この度、令和元年9月に外来診療棟正面外壁、正面玄関出入口及び総合外来に改修が完了し、正面玄関出入口は9月30日から、総合外来は10月7日からそれぞれ運用を開始しました。総合外来は新しい玄関を入れて右手に位置していますが、完成したばかりの広く、明るい清潔なスペースで日々診療を行っています。

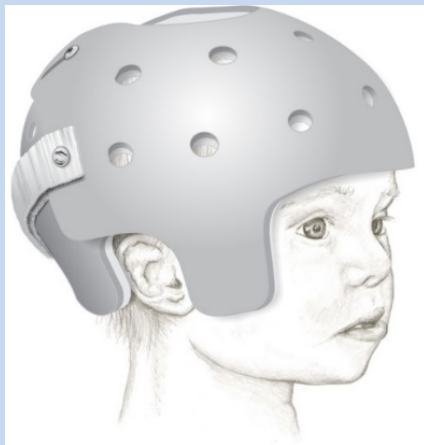


正面玄関と佐賀錦をモチーフにしたルーバー



外来新棟完成予想図

## 頭蓋形状矯正ヘルメット治療を行っています

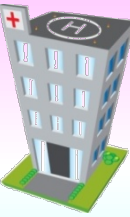


頭蓋形状誘導ヘルメット

顔と頭のかたち外来（形成外科）では、生まれて3ヶ月以上12ヶ月未満で一定の条件を満たす乳児を対象に、頭蓋形状誘導ヘルメット（左図参照）による治療を本年6月より開始しました。

一定の条件とは、頭位性斜頭（向き癖による頭の変形）であり、頭蓋早期癒合症や水頭症等の病的な疾患を原因とする頭蓋変形を除外されたものです。頭位性斜頭とは、外圧によって生じたものであり、原因の多くは生まれた後の向き癖によるものです。向き癖によりうしろあたまに平坦な部分ができると、首すわりして、向き癖が消失しても、同じ部分に過重がかかり、変形が改善しないと考えられています。見た目として、片側のうしろあたまの扁平化、耳の位置の左右差、さらに高度になると頭のとっぺんからみると平行四辺形を呈します。大人になっても変形を残してコンプレックスを持たれている方も多いようです。

もし、あなたのお子様、お孫様で頭のかたちをご心配のかたは、ご相談ください。



## がんゲノム医療を実施しています！

がんは、遺伝子異常の蓄積で起こる病気です。従来の抗がん剤治療は、どの患者さんにどの薬が効くのか予測することは困難でしたが、分子標的薬の臨床応用後、がん遺伝子異常を検査して効果予測を行うことが一部の薬剤で可能になりました。しかし、このような恩恵を受ける患者さんは、肺がんの約2割程度の他少数にとどまっており、多くの方には適応されません。

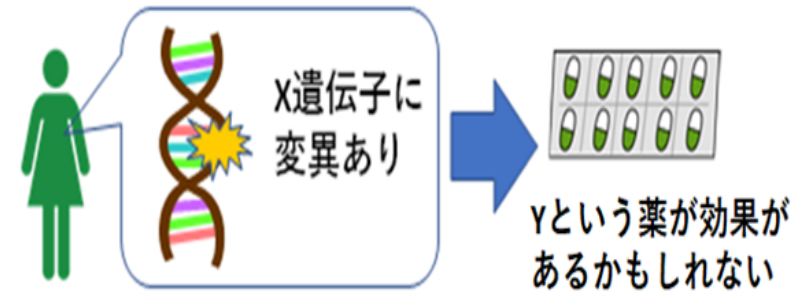
がんゲノムは、一度に100以上のがん遺伝子異常を検査し効果が期待できる薬剤を見つけることを目的とした医療です。本院では昨年からは自由診療として行ってきましたが、本年9月1日より先進医療として開始することになりました。

対象患者さんは、標準的治療（それぞれのがんで有効性が確認され、保険で承認されている治療）が効かなくなった方です。現在がん治療を受けておられる患者さんは、まず主治医の先生にご相談し、がんゲノム医療を受けられるかお決めください。

詳細は、下記へご連絡ください。

佐賀大学医学部附属病院地域連携室(電話 0952-34-3149)

### がんゲノム医療のイメージ



# 19. 学部・研究科の特色・強み

—平成31年 学部（研究科）—



<p><b>教育学部・学校教育学研究科</b></p> <p>教育学部《H28.4再編》 学校教育課程</p> <p>幼小連携教育コース 小中連携教育コース</p>	<p><b>芸術地域デザイン学部</b></p> <p>芸術地域デザイン学部 《H28.4再編・設置》</p> <p>芸術地域デザイン学科 芸術表現コース 地域デザインコース</p>	<p><b>経済学部</b></p> <p>経済学部《H25.4改組》 経済、経営、経済法の3学科</p>	<p><b>医学部・医学系研究科</b></p> <p>医学部 医学科 《S51.10開学》 看護学科 《H 5.4設置》</p>	<p><b>理工学部・工学系研究科</b></p> <p>理工学部《H31.4改組》 理工学科（12コース）</p>	<p><b>農学部・農学研究科</b></p> <p>農学部《H31.4改組》 生物資源科学科（4コース）</p>
<p><b>学校教育学研究科（教職大学院）</b> 《H28.4再編・設置》 ◇教育実践探究専攻</p> <p>授業実践探究コース 子ども支援探究コース 教育経営探究コース</p>		<p><b>先進健康科学研究科（専攻）</b>《H31.4改組・設置》 修士◇先進健康科学（4コース）</p>	<p><b>先進健康科学研究科</b></p> <p>先進健康科学研究科（専攻）《H31.4改組・設置》 修士◇先進健康科学（4コース）</p>		<p><b>農学研究科</b>《H31.4改組》 修士（専攻） ◇生物資源科学（4コース）</p>
<p><b>附属施設</b></p> <p>教育実践総合センター 《H 5.4改組》</p> <p>小学校 《S24.5設置》</p> <p>中学校 《S24.5設置》</p> <p>特別支援学校 《S53.4設置》</p> <p>幼稚園 《S45.4設置》</p>	<p><b>地域デザイン研究科</b></p> <p>地域デザイン研究科《H28.4再編・設置》 修士 ◇地域デザイン専攻</p> <p>芸術デザインコース 地域マネジメントコース</p>	<p><b>医学系研究科（専攻）</b> 博士◇医科学《H20.4改組》</p> <p><b>附属病院</b>《S56.10開院》</p> <p><b>附属施設</b> 地域医療科学教育研究センター 《H15.4設置》 先端医学研究推進支援センター 《H19.4設置》 看護学教育研究支援センター 《H27.4設置》 再生医学研究センター 《H31.4設置》</p> <p><b>寄附講座</b> 人工関節学 《H17.1~》 地域医療支援学 《H22.4~》 先進外傷治療学 《H25.1~》 臓器相關情報 《H27.4~》 循環制御学 《H28.4~》 他</p>	<p><b>理工学研究科</b>《H31.4改組》 修士（専攻） ◇理工学（10コース）</p> <p><b>工学系研究科</b>《H22.4改組》 博士後期（専攻） ◇システム創成科学</p> <p>電子情報システム学コース 生産物質科学コース 社会循環システム学コース 先端融合工学コース</p>	<p><b>附属施設</b> アグリ創生教育研究センター 《H24.10改組設置》</p> <p><b>鹿兒島大学連合農学研究科</b>《S63.4参加》 博士（専攻） ◇生物生産科学 ◇応用生命科学 ◇農水圏資源環境科学</p>	
<p>発達障害等への支援力養成と医学・教育学クロスカリキュラムの開発など 特色・強み⇒</p> <p>学部HP <a href="http://if3.pd.saga-u.ac.jp/">http://if3.pd.saga-u.ac.jp/</a></p>	<p>美術・工芸の歴史、有田セラミックなど 特色・強み⇒</p> <p>学部HP <a href="http://www.art.saga-u.ac.jp/">http://www.art.saga-u.ac.jp/</a></p>	<p>経済学・経営学・法学を統合化した独自の体系的カリキュラムによる教育など 特色・強み⇒</p> <p>学部HP <a href="http://www.eco.saga-u.ac.jp/">http://www.eco.saga-u.ac.jp/</a></p>	<p>先進的な医学教育、新たな人工関節の研究開発など 特色・強み⇒</p> <p>学部HP <a href="http://www.med.saga-u.ac.jp/">http://www.med.saga-u.ac.jp/</a></p>	<p>国際交流活動を行う学生組織、工学系高度人材育成コンソーシアム佐賀など 特色・強み⇒</p> <p>学部HP <a href="http://www.se.saga-u.ac.jp/">http://www.se.saga-u.ac.jp/</a></p>	<p>農業版MOT教育、アグリ創生教育研究センターなど 特色強み⇒</p> <p>学部HP <a href="http://www.ag.saga-u.ac.jp/">http://www.ag.saga-u.ac.jp/</a></p>

## 20. 理工学部・農学部の改組

佐賀大学理工学部及び農学部は、「地域創生の中核となる人材」を育成するため、平成31年度からそれぞれ1学科とし、入学後に専攻分野を決めることができるコース制とします。

## 理工学部・農学部 改組

【現在】

【平成31年度から】

## 理工学部 (490名)

数理科学科 (30)
物理科学科 (40)
知能情報システム学科 (60)
機能物質化学科 (90)
機械システム工学科 (90)
電気電子工学科 (90)
都市工学科 (90)

## 理工学部 (480名)

## 理工学科 (480名)

数理サイエンスコース	電子デバイス工学コース
知能情報システム工学コース	電気エネルギー工学コース
情報ネットワーク工学コース	メカニカルデザインコース
生命化学コース	機械エネルギー工学コース
応用化学コース	都市基盤工学コース
物理学コース	建築環境デザインコース

【現在】

【平成31年度から】

## 農学部 (145名)

応用生物科学科 (45)
生物環境科学科 (60)
生命機能科学科 (40)

## 農学部 (145名)

## 生物資源科学科 (145名)

生物科学コース
食資源環境科学コース
生命機能科学コース
国際・地域マネジメントコース

## ～ この改組構想による教育の特色 ～

## ・ 基礎教育と専門教育

理工学部及び農学部は、それぞれ1学科体制になり、1年次には学部共通の基礎教育を実施し、学生の基礎学力を養います。

また、2年次からは、専門的な知識、技術を修得するコースによる専門教育を実施します。

## ・ コース制の導入

理工学部、農学部ともに、入学志願者が大学入学後に幅広い分野の大学教育に触れながら、自らの適性や関心等に基づき、出口を意識したコースを選択できる仕組みを導入します。



# 工学系研究科・医学系研究科・農学研究科の改組

佐賀大学大学院工学系研究科（博士前期課程）、医学系研究科（修士課程）及び農学研究科（修士課程）は、「地域創生をけん引するニューリーダー」を育成するため、平成31年度から新しい研究科を設置します。

## 工学系研究科、医学系研究科及び農学研究科 改組

【現在】255名

### 工学系研究科 (博士前期課程)

- > 数理科学専攻
- > 物理学専攻
- > 知能情報システム学専攻
- > 循環物質化学専攻
- > 機械システム工学専攻
- > 電気電子工学専攻
- > 都市工学専攻
- > 先端融合工学専攻

### 医学系研究科 (修士課程)

- > 医科学専攻
- > 看護学専攻

### 農学研究科 (修士課程)

- > 生物資源科学専攻

【平成31年度から】251名

### 理工学研究科 167名

- > 理工学専攻
  - ・数学コース
  - ・物理学コース
  - ・データサイエンスコース
  - ・知能情報工学コース
  - ・機能材料化学コース
  - ・機械エネルギー工学コース
  - ・機械システム工学コース
  - ・電気電子工学コース
  - ・都市基盤工学コース
  - ・建築環境デザインコース

#### 理工学研究科

1専攻10コースにより専門分野の枠を超えた連携を行い、高度な知識・技術を身につけることで活躍できる人材を養成。

### 先進健康科学研究科 52名

- > 先進健康科学専攻
  - ・生体医工学コース
  - ・健康機能分子科学コース
  - ・医科学コース
  - ・総合看護科学コース

#### 先進健康科学研究科

従来の型にとらわれない異分野融合教育により、幅広い視点と柔軟な発想に基づき健康科学分野で活躍できる人材を養成。

### 農学研究科 32名

- > 生物資源科学専攻
  - ・生物科学コース
  - ・食資源環境科学コース
  - ・生命機能科学コース
  - ・国際・地域マネジメントコース

#### 農学研究科

農林水産業における地域創生の核となる‘知の拠点’としてコースを再編し、農学と他の学域の境界領域分野でも活躍できる人材を養成。

## ～ この改組構想による教育の特色 ～

### ・研究科間共通科目

理工学研究科、先進健康科学研究科及び農学研究科では、分野の枠を超えた視点や科学的思考力を養うことを目的とする創成科学融合特論や創成科学PBL特論などを展開します。

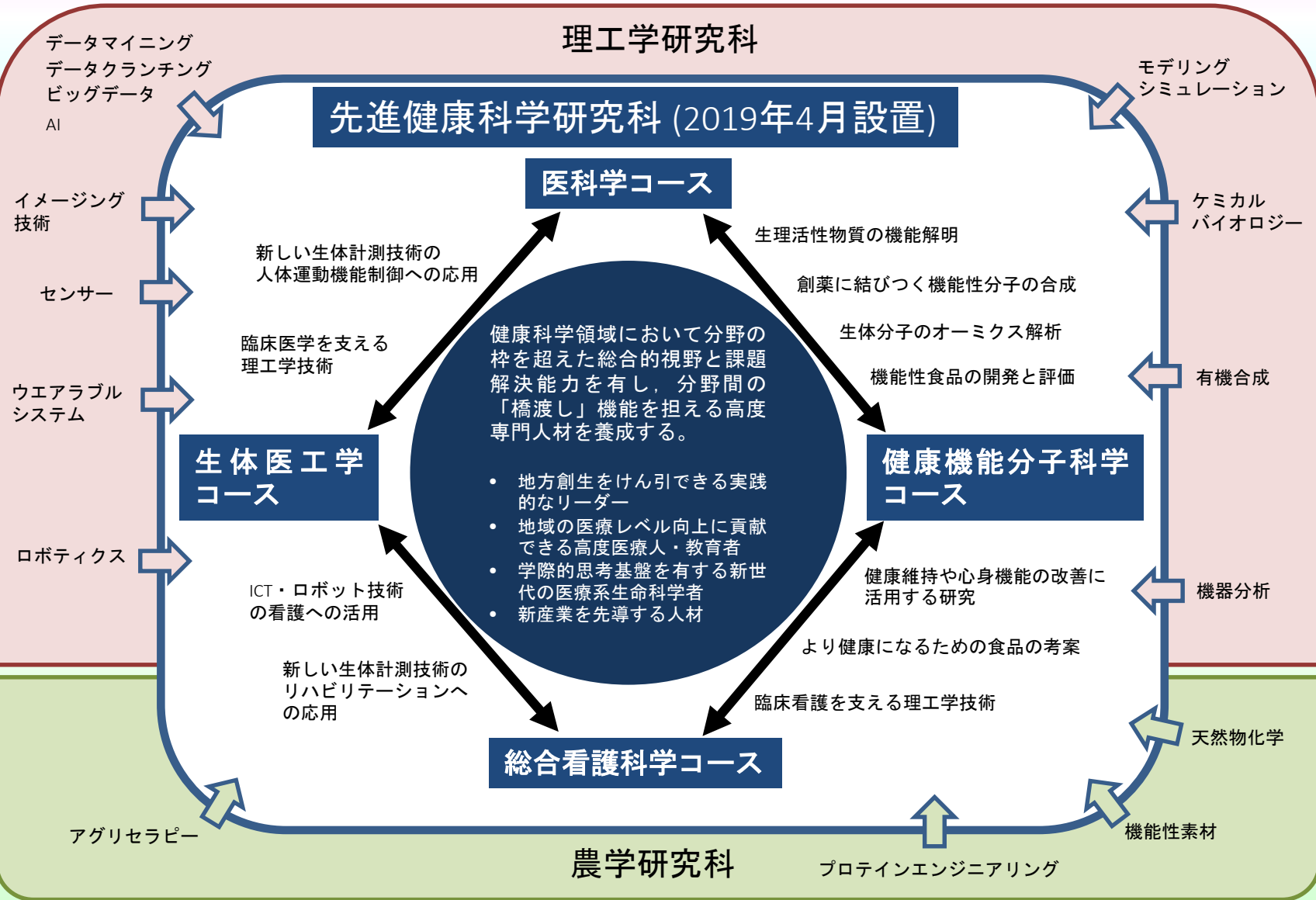
### ・大学院教養教育プログラム

研究科間共通科目の支援科目として位置付ける科目群で、研究者等として身につけておくべき研究・職業倫理、情報セキュリティ、データサイエンス、知的財産などに関する科目を展開します。





# 地域の健康医療を推進する融合大学院・先進健康科学研究科を設置



## 取得可能な学位

- 生体医工学コース  
修士(工学)
- 健康機能分子科学コース  
修士(理学、農学、医科学)
- 医科学コース  
修士(医科学)
- 総合看護科学コース  
修士(看護学)

## 養成する人材例

- 医工学に関連した  
製造・サービス業
- 健康関連・食品医薬  
品産業の研究者
- 試験場研究員
- 医療機関  
医療従事者
- 看護大学教員  
看護管理者
- 科学技術  
ジャーナリスト

学びの枠を越えたシナジー効果で、新時代の産業需要や地域課題に対応

## 目的

- 大卒者の**地元就職率の向上**
- **地域産業の振興による雇用の拡大・創出**

地元就職率向上のための**教育改革**

雇用の拡大・創出のための**産学官協働**

### 事業協働機関(産業界 NPO)

- 佐賀県商工会議所連合会
- 佐賀県商工会連合会
- 佐賀県経営者協会
- 佐賀経済同友会
- 佐賀県中小企業団体中央会
- 佐賀県農業協同組合
- (株)戸上電機製作所
- (株)オプティム
- (株)佐賀電算センター
- (社)ジャパン・コスメティックセンター
- NPO法人地球市民の会
- NPO法人鳳雛塾
- (株)そよかぜ館(道の駅)
- (株)七浦(道の駅鹿島)

他

### 事業協働地域

佐賀県10市10町

[佐賀県市長会・町村会]



### COC+参加大学

西九州大学

佐賀女子短期大学

九州龍谷短期大学

西九州大学短期大学部

- ・就職支援体制の強化
- ・アクティブ・ラーニングの推進
- ・大学間連携FD・SDの推進

### 専門職業人

- 保育士・情報処理士
- 管理栄養士・介護福祉士
- ビジネス実務士

## 産業界

## 地方公共団体

## NPO

COC+  
コーディネーター

雇用拡大・創出：佐賀県卒の検討 インターンシップ受入数の増加 必要な人材ニーズの提案  
産学官連携の推進(共同研究・受託研究) オープンセミナーの拡大 等

雇用拡大・創出：企業誘致・新産業育成策の推進 インターンシップ受入数の増加  
キャリア教育の支援 人材育成支援(総務省事業等との連携) 実務家講師の出前講座 等

キャリア教育プログラムの開発支援 Civic Pride 養成支援 インターンシップ受入 等

## 2018さがを創る大交流会

平成30年10月28日(日)開催

参加者：1,500名超！

- 本交流会は佐賀県内の自治体・企業・NPO・団体それぞれが魅力をPRする場を提供し、参加学生には出展者との交流を通して、佐賀をよく知り、将来の選択肢を広げることで、学生の地元定着を図ることを目的として開催した。
- 出展者からは「学生の要望を聞いて、大変意義のある交流会だった」、学生からは「佐賀にこんなに多くの企業があることにビックリした」、「今まで以上に佐賀について興味を持ち、佐賀という地で働くことを視野に入れて行きたい」などの意見が聞かれ、双方にとって実りある交流会となった。



## COC+シンポジウム2018

『インターンシップと地元定着』

参加者：104名

平成30年12月9日(日)開催

- 本シンポジウムは、先進的なインターンシップを行う企業代表からの基調講演や学生によるインターンシップ報告、インターンシップの成果と課題に関するディスカッションを行い、今後の県内でのインターンシップ推進と理解促進を図ることを目的として開催した。
- 先進的なインターンシップの取り組みや学生による報告、ディスカッションにより企業、学生、大学のそれぞれの立場からインターンシップに対する理解が深まり、今後の取り組みの参考となるシンポジウムとなった。

詳細は、佐賀大学COC+ HP <http://cocplus.saga-u.ac.jp/> でご確認下さい。

## 2.2. 自治体等との相互協力協定

相互協力協定：大学の多様な知的資源を活用し、教育と研究の両面から地域や社会の諸問題の解決を目的として、各市町が抱える固有の諸課題について、その地域における本学の活動を通して、地域社会の活性化に寄与することを目指します。

### 教育・文化・生涯学習，人材育成

### 地域振興・産業振興の向上

### 情報化社会の構築

### 地域医療・福祉の向上

佐賀県工業連合会  
[H29.7.14]

地域産業の発展  
地域人材の育成・確保  
学術研究の振興  
研究成果の社会活用  
産学連携の推進



唐津市  
[H18.10.21]



佐賀市  
[H19.11.29]

佐賀市，筑波大  
[H28.8]

藻類バイオマスの特性を活かした地域の発展及び地域産業の創生



鳥栖市  
[H23.11.10]



(株)サガン・ドリームス  
[H23.12.8]

スポーツを通じた地域づくり  
ひとづくり まちづくり  
夢づくり



有田町  
[H30.12.13]  
\*H17.4.25協定廃止

教育・研究の展開、文化振興、地域振興等の分野で相互協力し、地域社会の発展・人材の育成に寄与

小城町  
[H17.12.20]  
\*現 小城市



(株)佐賀銀行，(株)佐銀キャピタル&コンサルティング  
[H29.12.11]

地域の産学金連携推進  
企業・地域社会の発展



鹿島市  
[H18.7.19]



佐賀県農業協同組合中央会  
[H26.3.31]

- ① 産学連携による食関連事項の研究
- ② 人・自然・環境に基づく地域共生の取組とPR活動
- ③ 地産地消を基軸とした食の提供

### 「佐賀県における産学官包括連携協定」

[H20.10.10] (通称:6者協定)

佐賀県，佐賀県市長会，佐賀県町村会，佐賀県商工会議所連合会，佐賀県商工会連合会

OPTiM®

(株)オプティム  
[H29.5.30]

研究，人材育成を通じた地域の発展及び地域産業の創出

## 協定締結と関連事業

「工学系高度人材育成コンソーシアム佐賀(H22.11.30発足)」  
による連携事業(H28実施例)

◇研究室見学会・交流会(H28.10)  
工学系研究科の教育・研究を会員  
企業に紹介し、相互交流を実施。

◇高度人材育成キャリア講演会  
(H28.11～)  
工学系研究科の学生等を対象に  
会員企業の代表の方から講演。

◇工学系高度人材育成研修(H28.11)  
「タイ・ベトナム経済視察」  
タイ・ベトナム訪問と現地交流事業



包括的な連携推進に関する協定書調印式(H29.7.14)  
(宮崎学長(左)と中村佐賀県工業連合会会長(右))

## 「包括的な連携推進に関する協定(H29.7.14締結)」に基づく 関連事業

★企業ロボット技術者育成講座開講：佐賀県ロボット研究会(H29.4発足)への連携  
協力及び技術支援の取組み。ものづくりに携わっている企業向けに、画像処理特  
別講座(工学系研究科・泉准教授)及び新ロボット開発特別講座(工学系研究科・後  
藤教授)をH29.9から毎月1回開講(参加人数各約10名)。

★ロボテクス講演会開催(SAGAものスゴフェスタ2017にて)：佐賀県工業連  
合会及び佐賀県ロボット研究会主催の「ロボット×人工知能×ドローン」トーク  
セッション!にパネリストとして参加(工学系研究科・泉准教授, 林助教)。

★大学見学会(工学系高度人材育成コンソーシアム佐賀)：理工学部研究者のポス  
ターによる研究説明をH30.10.24に理工学部にて実施した。理工学部内の15人  
の有志教員により、ポスター発表が行われ、県内企業関係者と学内関係者70余名  
の参加があった。

※その他、教員の企業見学、COC+の協議会メンバー、さがを創る大交流会等、佐賀県工業連合会会  
員企業からの協力連携を推進。

～ 目 的 ～  
地域産業の発展  
地域人材の育成・確保  
学術研究の振興  
研究成果の社会活用  
産学連携の推進

# 自治体等との相互協力協定による事業展開

～(株)佐賀銀行、(株)佐銀キャピタル&コンサルティングとの連携協定～

三者は、相互に協力して佐賀大学の研究成果等を地域社会に一層円滑に還元すること及び緊密な情報交換等を行うことにより地域の産学金連携を推進し、企業及び地域社会の発展に貢献します



## 協定に基づき、第2回佐賀銀行 行員向けセミナーを実施しました！

平成31年2月23日(土)マイクロソフトイノベーションセンター佐賀 セミナールームにて、佐賀銀行行員向けセミナーである「サタデーカレッジ」のプログラムとして、第2回ビジネスマッチングセミナーを実施しました。

本学理工学部の研究者5名が、研究シーズや今後のビジネス展開等について講演しました。第2回となる今回は、行員だけでなく、佐賀銀行の顧客企業にも参加を呼びかけ、45名の行員と33社の企業が参加しました。

本プログラムは、協定に基づき行われる、さが産学金マッチング連絡会が企画したもので、本学が持つ研究シーズと、佐賀銀行が抱える顧客のニーズのマッチング促進を目的としています。

今後も、行員の方々の連携をいただきながら、佐賀銀行の顧客企業と本学で、新商品開発や地域的課題解決、新産業創出など様々な分野での共同研究の増加を目指します。



当日の様子



講演の様子

### 《参加者の声》

- 今後も研究している内容を分野ごとに発表していただく機会を作ってほしい。(行員)
- 今後、連携していきたい。(企業)
- 名刺交換の時間で、先生と顔見知りになることができ、今後の連携に期待が持てた。(企業)

産学金連携推進協定調印式(H29.12.11)

(秋葉代表取締役(左)と宮崎学長(中)と 陣内頭取(右))

(株)佐賀銀行、(株)佐銀キャピタル&  
コンサルティングの取引企業からの  
技術相談に関する支援

本学の研究成果等のシーズと  
企業の技術ニーズとのマッチング  
コーディネート

大学発ベンチャーの振興  
～ベンチャー講座、セミナー、  
ビジネスプランコンテストなど～

企業の技術ニーズの情報収集  
及びそれに対する情報提供

その他の合意事項

特別展の開催

○地域学歴史文化研究センターは、小城市との相互協力協定に基づき、毎年特別展を企画し、歴史文化による地域連携等を推進。  
○文系基礎学プロジェクトでの取組から始め、既に14年続く息の長い取組。これまで延べ9千人以上の方にご入場いただいています。  
○大学所蔵資料の調査研究の成果を展示に反映し、地域に還元していくという全国的にも数少ない事業といえます。

- 第1回(H16)：小城鍋島藩と島原の乱 ⇒ 入場 912人
- 第2回(H17)：小城鍋島家の近代 ⇒ 入場 547人
- 第3回(H18)：成立期の小城藩と藩主たち ⇒ 入場 551人
- 第4回(H19)：海外交流と小城市の洋学—小城鍋島文庫にみる— ⇒ 入場 605人
- 第5回(H20)：黄檗僧と鍋島家の人々 —小城の潮音・梅嶺の活躍— ⇒ 入場 611人
- 第6回(H21)：中世小城市の歴史・文化と肥前千葉氏 ⇒ 入場 793人
- 第7回(H22)：小城市の教育と地域社会 ⇒ 入場 728人
- 第8回(H23)：小城市の医学と地域医療～病をいやす～ ⇒ 入場 958人
- 第9回(H24)：海外交流と小城市の洋学—小城鍋島文庫にみる— ⇒ 入場 620人
- 第10回(H25)：小城藩と和歌～直能公自筆『岡花二十首 和歌』の里帰り～ ⇒ 入場 661人
- 第11回(H26)：小城城下と牛津宿～小城藩政の展開と人びとの経済活動～ ⇒ 入場 625人

**プレイバック企画：小城鍋島文庫に見る 小城鍋島藩と島原の乱**  
開催期間：平成27年 5月13日(水)～ 5月31日(日)  
会場：佐賀大学美術館・菊楠シュライバー館

第12回(H27)：小城祇園祭～千葉・鍋島から現代へ～ ⇒ 入場：986人

◇第1回及び第2回は、文系基礎学プロジェクト及び小城市が主催。  
◇会場は通常、小城市立歴史資料館 企画展示室。

**プレイバック企画：幕末維新期の小城—書聖・中林梧竹の生きた時代—**  
開催期間：平成28年 7月15日(金)～ 8月10日(水)  
会場：佐賀大学美術館・菊楠シュライバー館

第13回(H28)：花守と介次郎～明治を担った小城の人びと～ ⇒ 入場 730人

第14回(H29)：小城鍋島400年特別展「鍋島元茂—父を支え 小城市を領す—」 ⇒ 入場 920人

※関連：記念講演会(11/11)，シンポジウム(11/23)，その他

第15回(H30)：「千葉の城・鍋島の城—小城武士の本拠を探る—」 ⇒ 入場 1,020人

第16回(R1)：京の雅と小城藩 ⇒ 入場 658人

第16回「京の雅と小城藩」パンフレット▶



# サガン鳥栖との連携による地域振興と相互発展

## 【これまでのサガン鳥栖との主なかわり】

- (株)サガン・ドリームスと「**パートナーシップ協定**」を締結し、双方に連携した取組を通じて、さらなる「**人づくり**」「**まちづくり**」「**夢づくり**」事業を推進。
- サガン鳥栖が、健康増進プログラム(総務省交付金)として獲得した「サガン鳥栖健康増進プログラム『**ピカピカ☆サガントス**』」事業に参加。
- 医学部整形外科の医師が、**サガン鳥栖のチームドクター**を務め、選手の健康管理を担当。
- 医学部救急医学講座が、サガン鳥栖ホームゲームで**観客の医療サポート**を支援。
- サガン鳥栖の選手が**、医学部附属病院小児科病棟に**慰問に訪れ**、小児患者と交流。
- 佐賀大学祭で、**サガン鳥栖選手による「親子サッカー教室」**を開催。
- (株)サガン・ドリームス、佐賀県文化・スポーツ部、本学全学教育機構の三者による**スポーツボランティアリーダーの養成を目指した連携協定を締結**。
- サガン鳥栖のマスコット「ウイントス」くんが「挨拶運動2016」で、**附属小学校**を訪問。



医療サポートチーム



ウイントスくん&カッチーくん



小児科病棟慰問

本学はこれまで、地域の振興と相互

との連携を図ってきました。

**8年目のJ1**。さらなる高みを目指し、変化と成長を続ける佐賀県のサッカーチームサガン鳥栖を、佐賀大学は、これからも応援します!!

**みなさん、スタジアムへ!!**

そこには、**佐賀大学と地域の「絆」**

**があります。**





# さが藻類産業研究開発センター開所(2018.3.29)

- ◆ 藻類の培養や抽出技術などの研究を行うため「さが藻類産業研究開発センター」が、本学構内に平成30年3月29日開所。
- ◆ 「さが藻類産業研究開発センター」は、佐賀における藻類産業創出に向けた藻類研究開発の拠点を目指している。
- ◆ 本センターでは、藻類、とくに佐賀の微細藻類の調査、培養、そして培養された微細藻類からの有用成分の抽出などを担う予定。



オープニングセレモニーでテープカットする 秀島佐賀市長(中左),  
宮崎学長(中右) ほか 2018.3.29(写真:佐賀市提供)



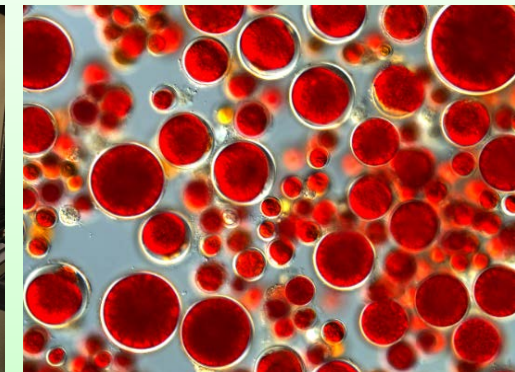
施設内部



施設内部(佐賀市提供)



施設内部



ヘマトコッカス(佐賀市・アルピータ提供)

佐賀大学、筑波大学と佐賀市は、藻類バイオマスの特性を活かした地域の発展及び地域産業の創生に資するため開発研究に関し連携及び協力  
(H28.8 協定書から)

# 有田町との包括連携協定を締結（H30(2018).12.13）



包括連携に関する協定書調印式(H30.12.13)

（宮崎学長（左）と松尾有田町長（右））

## 「有田キャンパス開設(H29.4.)」

芸術地域デザイン学部 芸術表現コース 有田セラミック分野の専門演習を中心に、肥前セラミック研究センターの教育、研究の場、そして全学を対象に教育の場として活用。



オープンキャンパス



～ 目 的 ～

教育・研究の展開、文化振興、  
地域振興等の様々な分野で相互  
に協力し、地域社会の発展及び  
人材の育成に寄与する

## 「肥前セラミック研究センター設置 (H29.4.)」

窯業の地域文化を基盤とした陶磁器・セラミック産業界と協働して芸術・科学・マネジメントが融合した国際的学術・研究拠点を形成することにより、地域の活性化に貢献することを目標としています。

特に地元肥前窯業界を中心に、更には国内他産地や海外までの公的機関、陶磁器及びセラミック企業や関係団体、他大学との連携により「やきものイノベーション」の創出を目指します。



肥前セラミック研究センター  
キックオフ講演会

日本マイクロソフト・パソナテック・佐賀県・佐賀市との5者連携

MICは全国で5カ所目  
西日本では佐賀県が初

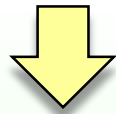
最新テクノロジーを活かせる人材の育成

将来国際社会で活躍する人材の育成

世界の知恵と技術を活用してイノベーションを起こせる人材の育成



インターンシップ（データサイエンス）の成果発表の様子。週刊ダイヤモンド2017年3月4日号でも紹介。

ICT機器を活用した最新のテクノロジーや注目度の高い  
データサイエンス等

新たな価値を創出する人づくり

佐賀大学では、インターンシップや地域ニーズ  
に沿ったICT人材育成ルーブリック開発など

MIC佐賀1周年イベントの様子。小学生向けマイクラフト講座（上）、最新のMR技術（マイクロソフトHoloLens）の体験（左）。

マイクロソフトイノベーションセンター（MIC） 技術の習得からイノベーションの実現、ソリューションの検証に至るまでの一貫した支援を提供。

MICは、地方の団体と協力し、地域のIT産業の活性化、振興をさまざまなプログラムを通して支援しています。また、それぞれのイノベーションセンターでは、地域の特性、得意分野に応じた支援が用意されています。

Microsoft Innovation Center HP(<http://www.microsoft.com/ja-jp/mic/default.aspx>)より

- ★ オプティム・ヘッドクォータービルを本庄キャンパスに誘致 (2017.10.1)
- ★ AI・IoT・Robot Pavilion, Cafeを設置。Robotics Laboratoryを併設予定。



- ★ スペースマネジメントによる産学連携推進
  - ⇒ IT農業の連携・共同研究
  - ⇒ IoT活用による川養殖連携事業
  - ⇒ IoT・AI活用による未来型医療の共同研究
  - ⇒ そのほか、インターンシップなど

# 「モノタロウAIストア」が本学構内にオープン(2018.4.2)

(株)オプティムと(株)モノタロウが共同出店、初めての事業者ユーザー向けAIストア(無人店舗)。キャッシュレス・セルフ決済を行うスマートデバイス用アプリ、店舗内カメラ映像および入退店ゲート機器の情報を、店舗管理支援サービス「Smart Retail Management」と連携。

実店舗に店員がいない状況でも、店舗内のカメラや入退店ゲート、各種センサーを制御。さらに、設置機器から取得したデータをAIが解析し、マーケティングに活用できる来店状況分析や防犯検知など、無人店舗を運営するにあたり必要となるさまざまな問題点ならびに、発生した問題に対する解決策などを本実証実験にて検証される。

(株)オプティムHPニュースから <https://www.optim.co.jp/news-detail/34888>



オープニングセレモニーでテープカットする (株)オプティム菅谷社長(中)、(株)モノタロウ鈴木社長(左)と宮崎学長(右) 2018.3.19

無人・省人  
オペレーションを  
目指した店舗

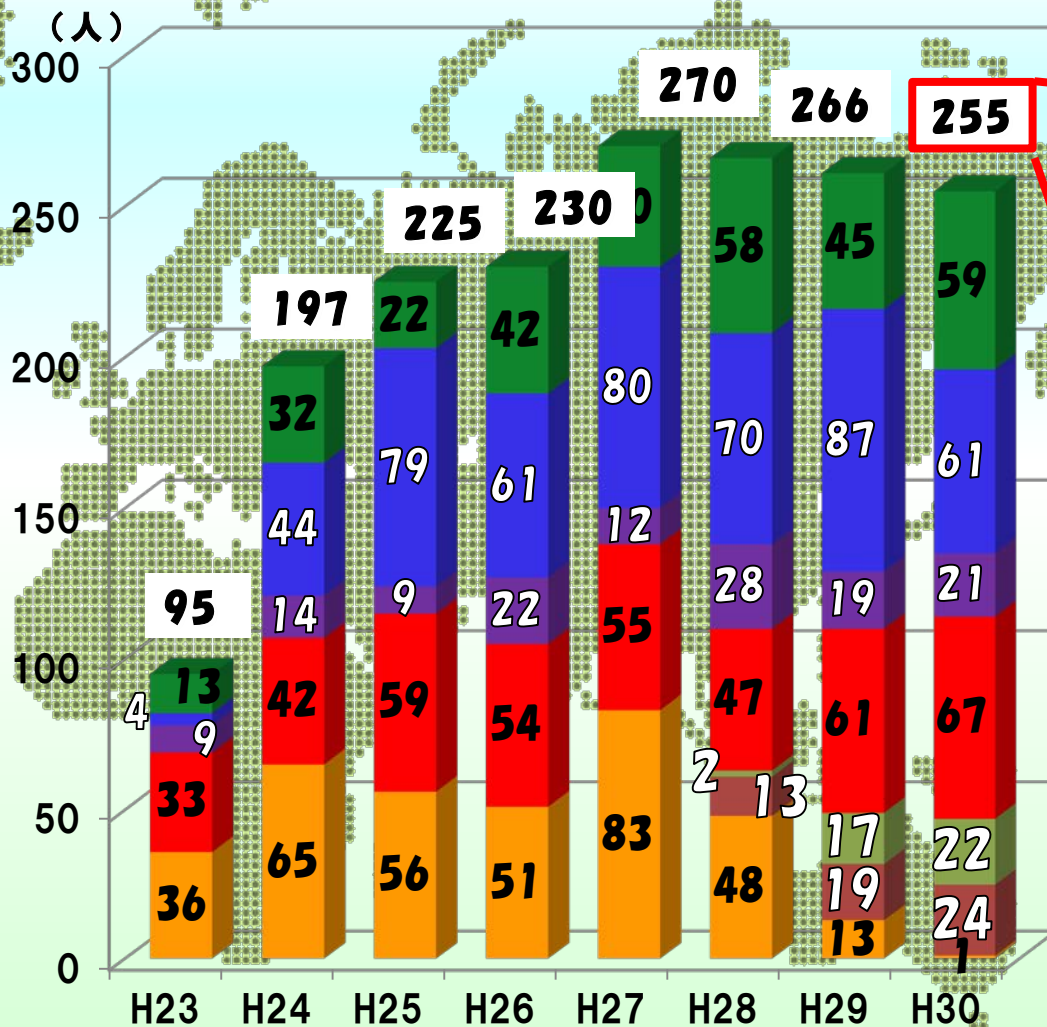
- ☞ キャッシュレス・セルフ決済
  - ☞ AIによるマーケティング活用分析
  - ☞ 防犯検知
- などの実証実験店舗



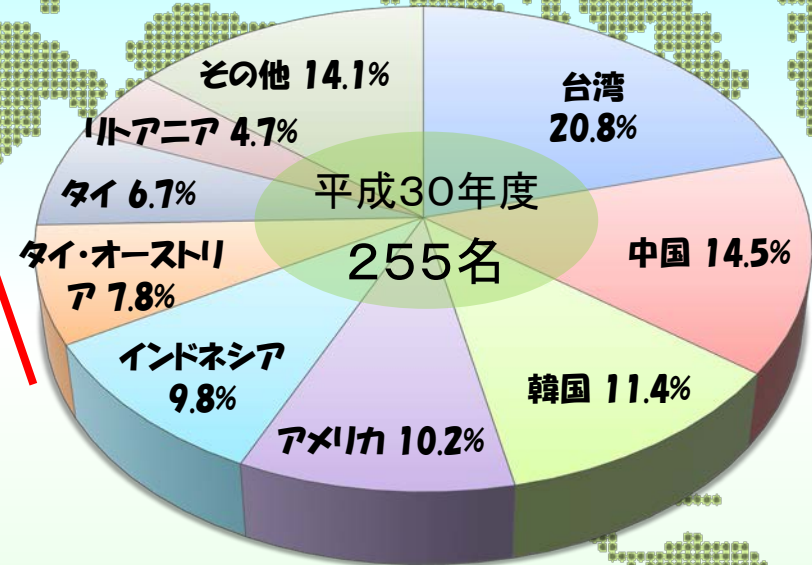
## 学部等別派遣留学者数(H23~)

From : SAGA University

※ 留学の種類には、派遣交換留学、短期海外研修及び学術交流協定校主催プログラム並びに部局プログラムがあります。



## 派遣先内訳(H30)



H.31.4.23 佐賀大学留学フェアに集まった約80人の学生

# キャンパスにおける国際交流

## ランゲージラウンジ



お昼休みの時間に、MEL教室で、日本人学生と留学生が英語・中国語等の外国語で会話を楽しんだり文化紹介をしたり、様々なアクティビティーを行っています

## Big Coffee Hour



ドリンクを飲みながら日本人学生と留学生がゲームをしたり文化交流を気軽に楽しみ、友だちづくりのきっかけとします



## カルチュラルナイト



留学生が自身の出身国をパフォーマンスや自国の料理で紹介するイベント  
毎年100人以上の日本人学生と留学生が文化交流を楽しみます

## グローバルリーダーズ



多様な文化・価値観を尊重しつつ学習・研究・知的交流ができるキャンパスについて考え、異文化交流プログラムやイベントを企画・運営している学生のグループ。  
キャンパスにおける国際交流をリードしています

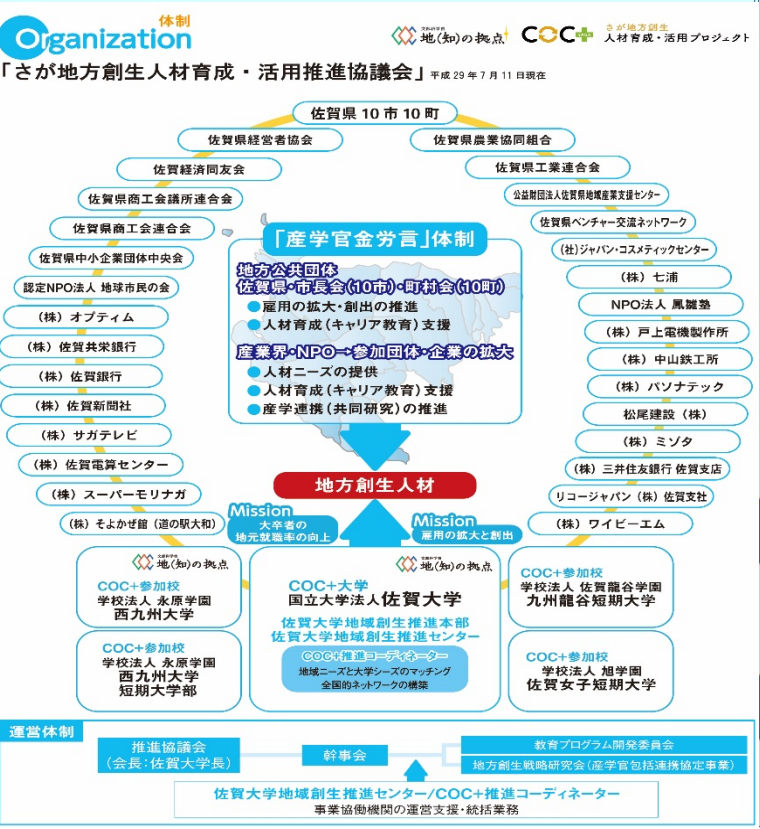
キャンパス全体が国際交流の場となっており、日本人学生にとっては、キャンパスにいながら外国語や異文化を体験することができます。

# 世界とともに発展するSAGANグローバル人材育成事業

～文部科学省官民協働海外留学支援制度トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム地域人材コース～



**さが**地方創生人材育成・活用推進協議会（COC+）では、佐賀県地域の企業からの寄附に加え、佐賀県、佐賀大学及び文部科学省官民協働海外留学創出プロジェクトからの支援により、**海外留学**と県内企業での**インターンシップ**を組み合わせた海外留学支援事業を実施。佐賀県地域の企業等に就職する等、将来の佐賀県地域の発展に貢献することを希望する学生が対象です。



### 資金について

— 資金の拠出 —

佐賀地域の企業からの寄附に加え、佐賀県、佐賀大学及び文部科学省官民協働海外留学創出プロジェクトからの支援により運営・実施

— 奨学金等 —

月額奨学金(12~16万円), 往復渡航費, 研修参加費, 授業料を支援

### これまでに支援した学生数とその留学先国

平成28年度 4名  
(インド, スリランカ, フィリピン, カナダ)

平成29年度 6名  
(オランダ, フランス, イスラエル, ミャンマー, タイ, オーストラリア, カナダ)

平成30年度 2名  
(ドイツ, イギリス)



事業HP: <http://tobitate.ryugaku.saga-u.ac.jp>  
 事務局: 学術研究協力部国際課(担当: 木下, 村岡)  
 (TEL: 0952-28-8716)

## 佐賀県国際戦略「世界とともに発展する佐賀県行動計画」とシンクロした5つのプログラム

- 1) 県内のものづくり活性化のための国内外インターンシッププログラム
- 2) 唐津コスメティック構想の実現や県内農産物輸出促進・県内農業活性化のための国内外インターンシッププログラム
- 3) やきものを中心としたアートやアートプロジェクトによる地域振興のための国内外インターンシッププログラム
- 4) インバウンドが期待される佐賀県が誘致する映画制作における国内外インターンシッププログラム
- 5) その他、佐賀県地域の活性化につながるグローバル課題解決型プログラム



# 26. 佐賀大学ホームカミングデー「佐賀大学校友会」 ～ 佐賀大学を応援してくださる皆様が校友です～



## 第7回ホームカミングデーをH30.11.17（土）に開催

- 全ての卒業生及び名誉教授招待
- 卒業生の方34名,名誉教授14名を含む81名が参加

### 〈企画〉

#### ・大学の研究紹介

「肥前セラミック研究センターが目指すところ」

講師 肥前セラミック研究センター長

教授 一ノ瀬 弘道 先生

「海洋エネルギー研究センターの現状と展望

ー海洋温度差発電研究の「世界展開」への挑戦ー

講師 海洋エネルギー研究センター副センター長

教授 池上 康之 先生

#### ・佐賀大学校友会学生生活動支援事業奨励金受給者による報告会

国際交流奨励金受給者

報告者 農学研究科修士課程2年 山本 ちひろ さん

海外派遣奨励金受給者

報告者 文化教育学部4年 長尾 冴子 さん

#### ・美術館による作品鑑賞

「美術・工芸教室第60回総合展, 美IOG展」

#### ・美術館スタジオにて懇談会



大学の研究紹介



学生生活動支援事業奨励金  
受給者による報告会



大学の研究紹介



学生生活動支援事業奨励金  
受給者による報告会



学長を囲んで参加者の皆さんで記念撮影




美術館での懇談会



美術館での懇談会



美術館作品鑑賞  
「美術・工芸教室第60回総合展,  
美IOG展」

 **第8回ホームカミングデーは、令和元年11月16日(土)に  
本庄キャンパスにて開催予定**

## 海外版ホームカミングデーの目的

- 佐賀大学と海外の協定校との連携の強化
- 海外在住の卒業生や留学生が一堂に会することで、佐賀大学関係者のネットワーク構築に繋げる

## 「第9回佐賀大学海外版ホームカミングデー in ジャカルタ」を開催

- 平成31年2月16日(土)、インドネシアの佐賀大学卒業生、各協定大学関係者、在インドネシア日本国大使館、国際協力機構(JICA)インドネシア事務所、日本学生支援機構(JASSO)インドネシア事務所、佐賀県、ジャカルタ佐賀県人会、関連企業等、及び佐賀大学関係者10名を含む総勢70名が参加しました。
- 式中、インドネシア人留学生会の発足式が行われ、初代会長のガジャマダ大学のサトウ教授及び世話役のヤマハ・ミュージック・ラボラトリーのイデラ氏に佐賀大学友好特使を委嘱しました。



挨拶する宮崎学長



参加者による集合写真

## 開催実績

- 第1回 平成24年3月 ベトナム(ハノイ)
- 第2回 平成24年9月 中国(杭州)
- 第3回 平成25年8月 韓国(ソウル)
- 第4回 平成27年3月 スリランカ(キャンデー)
- 第5回 平成27年9月 インドネシア(ジャカルタ)
- 第6回 平成28年2月 タイ(バンコク)
- 第7回 平成29年2月 ベトナム(ハノイ)
- 第8回 平成29年12月 中国(北京)
- 第9回 平成31年2月 インドネシア(ジャカルタ)

## 協定校訪問

- ホームカミングデーの開催に併せて、近隣協定校への訪問を実施。今後の交流内容の協議及び訪問校の学生に対し、佐賀大学への留学説明会を実施

### —ボゴール農業大学— (2月15日訪問)



### —ガジャマダ大学— (2月18日訪問)



# 佐賀大学ブランド商品などの紹介 ～ 悠々知酔, バラフ, さがんルビー～



## 清酒 ～ 悠々知酔～ ゆう ゆう ち すい

悠々と酒を飲みながら知の探究に酔い、桃源郷のような雲の上で  
ゆっくりとのんびり飲む姿をイメージしています。

<https://www.facebook.com/yuyuchisui>



- 本学のオリジナル清酒「悠々知酔」は、アグリ創生教育研究センターで収穫した「さがびより」お米と農学部で分離・育種した「清酒酵母」や「乳酸菌」を使用し製造。
- 地場の酒造メーカーと連携し、製造には、酒質(味・香り等々)決定、洗米・麴造り・仕込み・上槽(搾り)など、**全ての工程に農学部応用微生物学研究室の学生が参加。**
- 今回は、佐賀県三養基郡基山町にある基山商店様にお世話になりました。



完成披露会(基山商店にて)

佐賀大学オリジナル清酒  
「悠々知酔」

★今年も美味しいお酒が完成しました!!



学生による販売会

お酒は20歳になってから。  
お酒はおいしく適量を。

## バラフ (Barafu)

バラフ...それは光輝く野菜の宝石  
宝石のようにキラキラ光る葉と  
シャキシャキとした歯ざわりと塩味が特徴!!

- 南アフリカ原産の植物「アイスプラント」を農学部の研究により、**日本で初めて野菜化。**佐賀の地域農業活性化のため設立した、佐賀大学発ベンチャー企業「(株)農研堂」と契約農家の方々が、農学部で開発された技術によって品質安定を図り安全性に配慮して栽培。
- バラフを原料とした化粧品「バラフジュレ」や「バラフソープ」も好評販売中!



バラフ化粧品

## さがんルビー

全国で初めて品種登録された国産のグレープフルーツ!!  
**ルビー色の果肉。**さわやかでピターな香り。

- アグリ創生教育研究センターが独自に研究・開発を重ね、育て上げ全国で初めて品種登録された、**国産のグレープフルーツ。**
- 減農薬で安心して食べられる、さがんルビーを使ったロールケーキ「さがんルビーロール」(パティスリー『そら色の花』)や、ご当地サイダー「さがんルビーサイダー」(友樹飲料)及び、さがんルビー果汁(70%)と純米酒(30%)を合わせた「さがんルビーのお酒」(小松酒造)も好評販売中!
- また新たに、農学部が(社)ジャパンコスメティックセンター(JCC)の協力のもと連携協定を結んでいる(株)アルビオンより、さがんルビーから抽出したエキスを配合したスキンケア製品の発売を開始!



「グレープ」には  
「鈴なり」という  
意味があるよ!



2015.10.15  
人間国宝  
中島 宏氏

芸術を通じた  
人材の育成とは

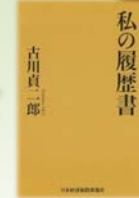
「美のドーベルマンになれ！」



2015.11.16  
元内閣官房副長官  
古川 貞二郎氏

わがふるさと佐賀への想い  
佐賀大学へエールを込めて

「志は高く、心は寛く、  
思慮は深く、頭は低く、そしてプラス思考」



2017.5.1  
株式会社オプティム  
菅谷 俊二氏

佐賀を母体にITのチカラで  
第4次産業革命を担う



「母校であるとともに、  
ビジネスの可能性を  
拡げてくれる存在」



2019.2.6  
本学OB・OG  
木下 剛仁氏  
伊東 克明氏  
西 美友紀氏

本学卒業生が「いちごさん」  
プロジェクトで活躍!!



「あたらしい事を起こす」、「あたらしい物を作る」こと  
に対する「ものの考え方やアプローチの仕方」など、  
「過程(プロセス)から結果(アウトプット)」に至る  
一連の工程について学んだ経験が  
とても役立っています!!



## ※ ファシリティ トピックス (教養大講前広場 : H31.3)

本庄キャンパスの教養教育大講義室西側の広場を平成31年3月26日に全面リニューアルしました。

濁りがちな池を埋め立てるとともにベンチや芝生スペースを配置する等、開放的な環境に生まれ変わりました。

また、総合研究1号館北側の敷地を有効活用するため、開放的な環境にリニューアルしました。



広場全景(リニューアル後)



広場全景(リニューアル前)

新たなシンボル ガリョ・ガリョ像  
「それでも地球は動いている」

広場入口



総合研究1号館北側



本庄キャンパスの大学会館（福利施設）のリニューアルを行い、平成31年4月1日にオープンしました。

本庄キャンパスでは初となるコンビニエンスストアを設置し、食堂や談話室も明るく開放的な空間に生まれ変わりました。



**コンビニエンスストア(ニューヤマザキデイリーストア)**



**エントランスホール**



**食堂(生協)**



**食堂に接するウッドデッキテラス**



**談話室**

# ※平成21年10月以降これまでの主な取り組み (archive)



H21.10~H22'	H23'	H24'	H25'	H26'
<b>H21.10</b>	<b>H23.04</b>	<b>H24.04</b>	<b>H25.04</b>	<b>H26.04</b>
H21.10 拡大役員懇談会 設置	H23.4 全学教育機構 設置 TP,LP取り組み	H24.4 産学・地域連携機構 設置	H25.4 経済学部 改組	H26.5 高校訪問(佐賀県内)
.12 経営協議会外部委員からの意見	徐福フロンティアラボ <sup>®</sup> 開所	第2期6者協定事業 スタート	アメリカンシエルコーナー オープン	.7 産学官国際交流セミナー
H22.2 佐賀大学学士力 策定	地域医療支援センター開設	.6 大学改革実行プランへの対応	.7 産学官国際交流セミナー	H26' 高大連携プロジェクト事業 「教師へのとびら」開始
H21' 認知症総合サポート事業 開始	.6 全学委員会の見直し・ 会議の効率的な運営	プロジェクト研究所制度 導入	.8 地(知)の拠点整備事業 (COC) 採択	<b>H26.10</b>
<b>H22.04</b>	(株)タニタとのコラボ 企画	高校訪問(佐賀県内)	海外版 HCD in ソウル	.10 第3回ホームカミングデー
H22.4 工学系, 農学研究科改組	.8 産学官国際交流セミナー	.7 IR室 設置	.9 統合10周年記念事業 (正門整備,美術館開館)	統合10周年記念誌 刊行
低平地沿岸海域研究センター設置	H23' かささぎ奨学金制度 創設	.8 産学官国際交流セミナー	<b>H25.10</b>	.11 第3回コンテンツデザイン コンテスト
農業技術経営管理者養成 (農業版MOT) 開講	<b>H23.10</b>	.9 大学間連携共同教育推進 事業 採択	.10 佛淵学長再任・新体制	6者フォーラム開催 ～第2期事業報告会～
障がい者就労支援コーディネータープログラム開講	6者フォーラム開催 ～第1期事業報告会～	事務系職員 クラブ制度 導入	.11 佐賀県との連携に関する 基本合意 締結	.12 地(知)の拠点整備事業 シンポジウム
.5 企業訪問 開始 (H25.3現在 105社訪問)	.10 運営体制の見直し	海外版 HCD in 杭州	高校訪問(福岡県内)	H27.1 佐賀大学改革プラン
<b>H22.10</b>	国際交流推進センター設置	<b>H24.10</b>	第2回ホームカミングデー	.3 海外版 HCD in スリランカ
H23.1 国際戦略構想 制定	.11 サガントリームスとの パートナーシップ協定等	.10 農学部附属アグリ創生 教育研究センター 設置	.12 第2回コンテンツデザイン コンテスト	
.3 工学系高度人材育成 コンソーシアム佐賀 設立	.12 中期目標・中期計画実施 本部体制 設立	第1回ホームカミングデー	南診療棟・北病棟竣工 記念式典	
	H24.3 海外版ホームカミングデー (HCD) in Hanon	.12 第1回佐賀コン テンツデザイン コンテスト	.1 佐賀県ドクターヘリ就航 記念式典	

1. 青枠の項目は、以前収録分。web (archiveから検索可能)。  
2. 学士力, 組織改組や学部主体の取り組み等は、本学HPや「学部・研究科の特色・強み」をご覧ください。

# ※平成21年10月以降これまでの主な取り組み (archive)



H27'	H28'	H29'	H30'	H31(R01)'
<p><b>H27.04</b></p> <p>H27.4 第3期6者協定事業スタート</p> <p>.6 高校訪問(長崎県内)</p> <p>.8 産学官国際交流セミナー</p> <p>.9 海外版 HCD in インドネシア</p> <p><b>H27.10</b></p> <p>H27.10 宮崎学長体制 スタート</p> <p>COC+事業 採択</p> <p>九州・沖縄シンポジウム in 佐賀2015(COC事業)</p> <p>.11 入試改革推進室 設置</p> <p>第4回ホームカミングデー</p> <p>第4回コンテンツデザイン コンテスト</p> <p>.12 地域創生推進本部・地域創生推進センター 設置</p> <p>H28.2 COC+事業 キックオフシンポジウム</p> <p>海外版 HCD in ハンコク</p> <p>研究推進戦略 策定</p> <p>.3 ラーニング・commons 拡充</p>	<p><b>H28.04</b></p> <p>H28.4 教育, 芸術地域デザイン学部, 教職大学院等 設置 コンテンツ共創ラボ 設置 (e-learningスタジオ移行)</p> <p>佐賀大学エコアクション 開始(EA21→独自対応)</p> <p>.5 「MIC in SAGA」を核とした五者連携協定 締結</p> <p>H28.7 教育関係共同利用拠点「クリエイティブ・ラーニングセンター」設置</p> <p>佐賀大学CSIRT 設置</p> <p>企業訪問 開始</p> <p>.8 産学官国際交流セミナー</p> <p>H28' 高大連携プロジェクト事業「科学へのとびら」開始</p> <p><b>H28.10</b></p> <p>.11 第5回ホームカミングデー</p> <p>COC, COC+事業 シンポジウム</p> <p>H29.1 図書館前テラス 設置</p> <p>.2 海外版 HCD in ハノイ</p>	<p><b>H29.04</b></p> <p>H29.4 有田キャンパス 開設</p> <p>肥前セラミック研究センター設置</p> <p>eduroam 参加</p> <p>.5 ダイバーシティ推進室 設置 (株)オプティムと包括的連携推進協定</p> <p>.7 佐賀県工業連合会と包括連携協定</p> <p>.8 高大連携プロジェクト事業「医療人へのとびら」開始</p> <p><b>H29.10</b></p> <p>.10 運営体制等見直し</p> <p>リージョナル・イノベーションセンター 設置</p> <p>(株)オプティム佐賀本店移転</p> <p>COC, COC+事業 シンポジウム</p> <p>.11 さがを創る大交流会 (さが地方創生人材育成・活用推進協議会主催)</p> <p>第6回ホームカミングデー</p> <p>.12 推薦入試でCBT導入実施</p> <p>海外版 HCD in 北京</p> <p>佐賀銀行, 佐銀キャピタル&amp;コンサルティングと連携協定</p> <p>H30.3 (株)木村情報技術と協定</p> <p>さが藻類産業研究開発センター開所</p>	<p><b>H30.04</b></p> <p>H30.4 教育研究院(組織分離)</p> <p>モノタロウAIストア オープン</p> <p>.7 高大連携プロジェクト事業「社会へのとびら」開始</p> <p>「AIヘルプデスク」サービス開始</p> <p>.8 好生館ライフサイエンス研究所との連携大学院協定</p> <p>「古賀常次郎記念奨学金」創設に伴う式典</p> <p>.9 教育学部AO入試でCBT(英語4技能試験)実施</p> <p><b>H30.10</b></p> <p>.10 さがを創る大交流会 (さが地方創生人材育成・活用推進協議会主催)</p> <p>.11 第7回ホームカミングデー</p> <p>.12 COC+事業 シンポジウム</p> <p>有田町との包括連携協定</p> <p>H31.2 海外版 HCD in ジャカルタ</p> <p>.3 研究基盤共用促進チーム・キックオフシンポジウム</p> <p>Citynow Asia(株)とのIT人材育成・共同研究事業に係る協定(+佐賀市進出協定)</p>	<p><b>H31.04</b></p> <p>H31.4 サブ スペシャルティ科目開講</p> <p>理工学部, 農学部改組(各1学科コース制に移行)</p> <p>工・医学系・農学研究科改組(先進健康科学研究科設置)</p> <p>大学会館リ改修・コンビニエンスストア オープン</p> <p>教養大講前広場「ガリョ・カレライ像」序幕</p> <p>.R01.5 農研機構との連携・協力協定</p> <p>コンテンツ開発拠点「リテコ」オープニングイベント(7月開設)</p> <p>植物工場 竣工</p> <p><b>R01.10</b></p> <p>R01.10 児玉学長体制 スタート</p> <p>「授業開放」開始</p> <p>佐賀県と再エネ連携協定「再生可能エネルギー等イノベーション共創プラットフォーム」設立</p>

1. 青枠の項目は、以前収録分。web (archiveから検索可能)。

2. 学士力, 組織改組や学部主体の取り組み等は、本学HPや「学部・研究科の特色・強み」をご覧ください。

3. 各項目は概ね次の通り区分。

- 業務  
運営
- 教学  
教育
- 学術  
研究
- 組織  
部局
- 社会  
貢献
- その他







国立大学法人 佐賀大学

<http://www.saga-u.ac.jp/>

### 学外者の方へ

- ・無断転載はお控えいただきますようお願いいたします。
- ご質問等がありましたら、佐賀大学広報室(TEL 0952-28-8153)へご連絡ください。

### 学内教職員へ

- ・大学情報を学内外へ発信するために、自由に利用してください。
- ・生原稿が必要な方は、広報室(内線8153)へご連絡ください。